



Informatica® PowerCenter  
10.4.0

# Mapping Analyst for Excel **ガイド**

本製品には、<http://www.tcl.tk/software/tcltk/license.html>, <http://www.bosrup.com/web/overlib/?License>, <http://www.stlport.org/doc/license.html>, <http://www.asm-ow2.org/license.html>, <http://www.cryptix.org/LICENSE.TXT>, <http://hsqldb.org/web/hsqllicense.html>, <http://htpunit.sourceforge.net/doc/license.html>, <http://jung.sourceforge.net/license.txt>, [http://www.zip.org/zlib\\_license.html](http://www.zip.org/zlib_license.html), <http://www.openldap.org/software/release/license.html>, <http://www.libssh2.org/http://slf4j.org/licenses.html>, <http://www.sente.ch/software/OpenSourceLicense.html>, <http://fusesource.com/downloads/license-agreements/fuse-message-broker-v-5-3-license-agreement>, <http://antlr.org/license.html>, <http://aopalliance.sourceforge.net/>, <http://www.bouncycastle.org/licenses.html>, <http://www.jgraph.com/jgraphdownload.html>, <http://www.jcraft.com/jsch/LICENSE.txt>, [http://jotm.objectweb.org/bds\\_license.html](http://jotm.objectweb.org/bds_license.html)に基づいて許諾されたソフトウェアが含まれています。 <http://www.w3.org/Consortium/Legal/2002/copyright-software-20021231>, <http://www.slf4j.org/licenses.html>, <http://nanoxml.sourceforge.net/orig/copyright.html>, <http://www.json.org/licenses.html>, <http://forge.ow2.org/projects/javaservice/>, <http://www.postgresql.org/about/licenses.html>, <http://www.sqlite.org/copyright.html>, <http://www.tcl.tk/software/tcltk/licenses.html>, <http://www.jaxen.org/faq.html>, <http://www.jdom.org/docs/faq.html>, <http://www.slf4j.org/licenses.html>, <http://www.iodbc.org/dataspace/iodbc/wiki/ODBC/License>, <http://www.keplerproject.org/md5/licenses.html>, <http://www.toedter.com/en/calendar/licenses.html>, <http://www.edankert.com/bounce/index.html>, <http://www.net-snmp.org/about/licenses.html>, <http://www.forty-two.org/licenses.html>

[www.openmdx.org/#FAQ](http://www.openmdx.org/#FAQ)、[http://www.php.net/license/3\\_01.txt](http://www.php.net/license/3_01.txt)、<http://srp.stanford.edu/license.txt>、<http://www.schneier.com/blowfish.html>、<http://www.jmock.org/license.html>、<http://xsom.java.net>、<http://benalman.com/about/license/>、<https://github.com/CreateJS/EaselJS/blob/master/src/easeljs/display/Bitmap.js>、<http://www.h2database.com/html/license.html#summary>、<http://jsoncpp.sourceforge.net/LICENSE>、<http://jdbc.postgresql.org/license.html>、<http://protobuf.googlecode.com/svn/trunk/src/google/protobuf/descriptor.proto>、<https://github.com/rantav/hector/blob/master/LICENSE>、<http://web.mit.edu/Kerberos/krb5-current/doc/mitK5license.html>、<http://jibx.sourceforge.net/jibx-license.html>、<https://github.com/lyokato/libgeohash/blob/master/LICENSE>、<https://github.com/hjiang/jsonxx/blob/master/LICENSE>、<https://code.google.com/p/lz4/>、<https://github.com/jedisct1/libsodium/blob/master/LICENSE>、<http://one-jar.sourceforge.net/index.php?page=documents&file=license>、<https://github.com/EsotericSoftware/kryo/blob/master/license.txt>、<http://www.scala-lang.org/license.html>、<https://github.com/tinkerpop/blueprints/blob/master/LICENSE.txt>、<http://gee.cs.oswego.edu/dl/classes/EDU/oswego/cs/dl/util/concurrent/intro.html>、<https://aws.amazon.com/asl/>、<https://github.com/twbs/bootstrap/blob/master/LICENSE>、および <https://sourceforge.net/p/xmlunit/code/HEAD/tree/trunk/LICENSE.txt>。

本製品には、Academic Free License (<http://www.opensource.org/licenses/afl-3.0.php>)、Common Development and Distribution License (<http://www.opensource.org/licenses/cddl1.php>)、Common Public License (<http://www.opensource.org/licenses/cpl1.0.php>)、Sun Binary Code License Agreement Supplemental License Terms、BSD License (<http://www.opensource.org/licenses/bsd-license.php>)、BSD License (<http://opensource.org/licenses/BSD-3-Clause>)、MIT License (<http://www.opensource.org/licenses/mit-license.php>)、Artistic License (<http://www.opensource.org/licenses/artistic-license-1.0>)、Initial Developer's Public License Version 1.0 (<http://www.firebirdsql.org/en/initial-developer-s-public-license-version-1-0/>) に基づいて許諾されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、ソフトウェア copyright (C) 2003-2006 Joe Walnes, 2006-2007 XStream Committers が含まれています。All rights reserved. 本ソフトウェアに関する許諾および制限は、<http://j.org/license.html> にある使用条件に従います。本製品には、Indiana University Extreme! Lab によって開発されたソフトウェアが含まれています。詳細については、<http://www.extreme.indiana.edu/>を参照してください。

本製品には、ソフトウェア Copyright (C) 2013 Frank Balluffi and Markus Moeller が含まれています。All rights reserved. 本ソフトウェアに関する許諾および制限は、MIT ライセンスの使用条件に従います。

特許については、<https://www.informatica.com/legal/patents.html> を参照してください。

免責: 本文書は、一切の保証を伴わない「現状渡し」で提供されるものとし、Informatica LLC は他社の権利の非侵害、市場性および特定の目的への適合性の黙示の保証などを含めて、一切の明示的および黙示的保証の責任を負いません。Informatica LLC では、本ソフトウェアまたはドキュメントに誤りのないことを保証していません。本ソフトウェアまたはドキュメントに記載されている情報には、技術的に正確な記述や誤植が含まれる場合があります。本ソフトウェアまたはドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。

## NOTICES

この Informatica 製品（以下「ソフトウェア」）には、Progress Software Corporation（以下「DataDirect」）の事業子会社である DataDirect Technologies からの特定のドライバ（以下「DataDirect ドライバ」）が含まれています。DataDirect ドライバには、次の用語および条件が適用されます。

1. DataDirect ドライバは、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。
2. DataDirect または第三者は、予見の有無を問わず発生した ODBC ドライバの使用に関するいかなる直接的、間接的、偶発的、特別、あるいは結果的損害に対して責任を負わないものとします。本制限事項は、すべての訴訟原因に適用されます。訴訟原因には、契約違反、保証違反、過失、厳格責任、詐称、その他の不法行為を含みますが、これらに限るものではありません。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、[infa\\_documentation@informatica.com](mailto:infa_documentation@informatica.com) までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2020-02-04

# 目次

<b>序文</b>	<b>7</b>
Informatica のリソース	7
Informatica Network	7
Informatica ナレッジベース	7
Informatica マニュアル	7
Informatica 製品可用性マトリックス	8
Informatica Velocity	8
Informatica Marketplace	8
Informatica グローバルカスタマサポート	8
 <b>第 1 章 : Mapping Analyst for Excel について</b>	 <b>9</b>
Mapping Analyst for Excel の概要について	9
マッピング仕様	9
マッピング仕様テンプレート	10
Mapping Analyst for Excel のプロセス	10
 <b>第 2 章 : 標準マッピング仕様テンプレート</b>	 <b>12</b>
標準マッピング仕様テンプレートの概要	12
Excel アドイン	13
Excel 2016 のアドインのインストール	13
標準マッピング仕様テンプレートのコピーと名前変更	13
ワークシートのカラムの表示	13
ユーザー定義プロパティ	14
ユーザー定義プロパティの設定	14
 <b>第 3 章 : モデルワークシート</b>	 <b>15</b>
モデルワークシートの概要	15
モデルワークシートの設定	15
複数のモデルワークシートの作成	16
モデルワークシートの検証	16
モデルワークシートのプロパティ	17
モデル/カタログセクション	17
パッケージセクション	17
スキーマセクション	17
エンティティ/テーブル/レコード/ビューセクション	18
属性/カラム/フィールドセクション	19
データ型セクション	20
 <b>第 4 章 : パッケージワークシート</b>	 <b>22</b>
パッケージワークシートの概要	22

パッケージワークシートの設定. . . . .	22
パッケージワークシートの検証. . . . .	23
パッケージワークシートのプロパティ. . . . .	23
<b>第5章: ドメインおよび列挙ワークシート. . . . .</b>	<b>24</b>
ドメインおよび列挙ワークシートの概要. . . . .	24
ドメインワークシートの設定. . . . .	25
列挙ワークシートの設定. . . . .	25
複数のドメインワークシートまたは列挙子ワークシートの作成. . . . .	25
ドメインワークシートおよび列挙子ワークシートの検証. . . . .	26
ドメインワークシートのプロパティ. . . . .	26
列挙ワークシートのプロパティ. . . . .	27
<b>第6章: マッピングワークシート. . . . .</b>	<b>29</b>
マッピングワークシートの概要. . . . .	29
マッピングワークシートの設定. . . . .	29
複数のマッピングワークシートの作成. . . . .	30
マッピングワークシートの検証. . . . .	30
マッピングワークシートのプロパティ. . . . .	31
マッピングセクション. . . . .	31
ソースとターゲットセクション. . . . .	31
マッピング仕様セクション. . . . .	32
<b>第7章: 結合ワークシート、ルックアップワークシート、フィルタワークシート. . . . .</b>	<b>34</b>
結合ワークシート、ルックアップワークシート、およびフィルタワークシートの概要. . . . .	34
ジョイナトランスフォーメーション. . . . .	35
結合ワークシートの設定. . . . .	35
結合ワークシートのプロパティ. . . . .	35
ルックアップトランスフォーメーション. . . . .	37
ルックアップの例. . . . .	37
ルックアップ条件の設定. . . . .	38
ルックアップの戻り値の設定. . . . .	39
ルックアップワークシートのプロパティ. . . . .	39
フィルタトランスフォーメーション. . . . .	40
フィルタワークシートのプロパティ. . . . .	40
複数の結合、フィルタ、ルックアップの各ワークシートの作成. . . . .	41
結合、ルックアップ、フィルタの各ワークシートの検証. . . . .	41
<b>第8章: ルールワークシート. . . . .</b>	<b>43</b>
ルールワークシートの概要. . . . .	43
ルールの例. . . . .	43
ドメインと列挙を使用したルールの例. . . . .	44

ルールワークシートの設定. . . . .	45
ルールワークシートの書式設定. . . . .	46
複数のルールワークシートの作成. . . . .	46
ルールワークシートの検証. . . . .	46
ルールワークシートのプロパティ. . . . .	47
ルールセクション. . . . .	47
ソースセクション. . . . .	47
ターゲットセクション. . . . .	48
<b>第9章: マッピング仕様のインポートとエクスポート. . . . .</b>	<b>50</b>
マッピング仕様のインポートおよびエクスポートの概要. . . . .	50
マッピング仕様のインポート. . . . .	51
マッピングのエクスポート. . . . .	53
ログイベントのレベルの設定. . . . .	54
マッピング仕様のインポートおよびエクスポートのトラブルシューティング. . . . .	55
<b>索引. . . . .</b>	<b>56</b>

# 序文

*PowerCenter(R) Mapping Analyst for Excel* ガイドを使用して、PowerCenter マッピングを設定および定義し、Microsoft Office Excel のソース、ターゲット、およびトランスフォーメーションを含める方法を理解します。

## Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

### Informatica Network

Informatica Network は、Informatica ナレッジベースや Informatica グローバルカスタマサポートなど、多くのリソースへの入口です。Informatica Network を利用するには、<https://network.informatica.com> にアクセスしてください。

Informatica Network メンバーは、次のオプションを利用できます。

- ナレッジベースで製品リソースを検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- サポートケースを作成して確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

### Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、<https://search.informatica.com> にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム ([KB\\_Feedback@informatica.com](mailto:KB_Feedback@informatica.com)) です。

### Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム ([infa\\_documentation@informatica.com](mailto:infa_documentation@informatica.com)) までご連絡ください。

## Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス (PAM) には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica PAM は、<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices> で参照できます。

## Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスが開発したヒントとベストプラクティスのコレクションで、多数のデータ管理プロジェクトから得た実体験に基づいています。Informatica Velocity には、世界中の組織と連携してデータ管理ソリューションを計画、開発、デプロイ、管理する Informatica コンサルタントによる集合知を表しています。

Informatica Velocity リソースには、<http://velocity.informatica.com> からアクセスしてください。Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、[ips@informatica.com](mailto:ips@informatica.com) から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

## Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を拡張したり強化したりするソリューションを検索できるフォーラムです。Marketplace で、Informatica デベロッパーやパートナーからの多数のソリューションを活用すれば、生産性を向上したり、プロジェクトでの実装時間を短縮したりできます。Informatica Marketplace は、<https://marketplace.informatica.com> からアクセスしてください。

## Informatica グローバルカスタマサポート

電話または Informatica Network からグローバルサポートセンターに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>) を参照してください。

Informatica Network でオンラインサポートリソースを見つけるには、<https://network.informatica.com> にアクセスし、eSupport オプションを選択します。



## 第 1 章

# Mapping Analyst for Excel について

この章では、以下の項目について説明します。

- [Mapping Analyst for Excel の概要について, 9 ページ](#)
- [マッピング仕様, 9 ページ](#)
- [マッピング仕様テンプレート, 10 ページ](#)
- [Mapping Analyst for Excel のプロセス, 10 ページ](#)

## Mapping Analyst for Excel の概要について

Mapping Analyst for Excel を使用して、Microsoft Office Excel で PowerCenter マッピングを設定したり、Microsoft Office Excel に PowerCenter マッピングをエクスポートしたりします。PowerCenter マッピングを作成する場合、以下のようなユーザーが連携する可能性があります。

- ビジネスアナリスト。Microsoft Excel でマッピング仕様を作成し、ソース、ターゲット、およびトランスフォーメーションを含めることができるマッピングを定義します。ビジネスアナリストは、プロジェクトの要件や、ソースデータおよびターゲットデータに精通していますが、PowerCenter ユーザーではありません。
- PowerCenter 開発者。Repository Manager を使用してマッピング仕様をインポートし、対応する PowerCenter オブジェクトを作成します。PowerCenter 開発者は、オブジェクトの編集、追加機能の実装、マッピングから生成されたワークフローの実行を行えます。

例えば、ビジネスアナリストが従業員データを複数のソースから 1 つのデータウェアハウスにマージするとします。ただし、ビジネスアナリストは、必要なマッピングを作成するための十分な PowerCenter Client の知識を持っていません。ビジネスアナリストは、PowerCenter Client に付属の標準マッピング仕様テンプレートを使用して、必要なソース、トランスフォーメーション、およびターゲットを記述したマッピング仕様を作成します。PowerCenter 開発者は、PowerCenter リポジトリにマッピング仕様をインポートし、PowerCenter Client でマッピングを開発します。

## マッピング仕様

マッピング仕様は、PowerCenter リポジトリにインポートするためのメタデータが含まれる Microsoft Excel ファイルです。マッピング仕様を使用してソース定義やターゲット定義を定義します。また、ソース定義とタ

ターゲット定義、およびソースとターゲット間のトランスフォーメーションを定義して、マッピングを定義します。

マッピング仕様を作成する場合、考えられるすべてのオブジェクトを定義する必要はありません。PowerCenter リポジトリサービスが、マッピング仕様に定義されたオブジェクト定義をインポートします。例えば、トランスフォーメーションを定義しない場合、PowerCenter リポジトリサービスはソースとターゲットの定義のみをインポートします。

## マッピング仕様テンプレート

Mapping Analyst for Excel には標準マッピング仕様テンプレートが含まれます。これを使用して、Microsoft Excel 内でマッピング仕様を開発できます。標準マッピング仕様テンプレートは、PowerCenter Client と共にインストールされる Microsoft Excel ファイルであり、マッピング仕様の構造を定義します。

標準マッピング仕様テンプレートには、以下の Excel ワークシートが含まれます。

- モデル。すべてのソース定義とターゲット定義を設定します。
- パッケージ。各モデル内のパッケージの階層を設定します。
- ドメイン。マッピング仕様内の参照データを設定します。
- 列挙子。ドメインごとに参照値のリストを設定します。
- マッピング。マッピング名、ソースポートとターゲットポートの接続、集計式、非集計式を設定します。1つのマッピングワークシートで複数のマッピングを設定できます。
- 結合。異なる場所またはファイルシステムにある2つの関連する異種ソースからのソースデータを結合します。
- ルックアップ。マッピングパイプラインの外部にあるデータを検索するためのルックアップを設定します。
- フィルタ。マッピングパイプラインからソースデータを除外するためのフィルタを設定します。
- ルール。マッピングワークシートで式として使用できる再利用可能なルールを設定します。

**注:** 標準マッピング仕様テンプレートにはリレーションワークシートも含まれますが、PowerCenter ではこのワークシートは使用されません。そのため、リレーションワークシートはサポートされていません。

標準マッピング仕様テンプレート (Standard-Blank.xlsx) は、次のディレクトリに含まれます。

```
<PowerCenterClientInstallationDir>\client\bin\mimb\conf\MIRModelBridgeTemplate\MIRMMicrosoftExcel
```

## Mapping Analyst for Excel のプロセス

Mapping Analyst for Excel を使って作業するには、以下のプロセスを使用します。

1. ビジネスアナリストが標準マッピング仕様テンプレートに基づいてマッピング仕様を作成します。
2. ビジネスアナリストはモデルワークシートでソースとターゲットのメタデータを入力します。
3. ビジネスアナリストは、Microsoft Excel を使用してソースとターゲットのポートを接続し、式、結合、ルックアップ、フィルタ、およびルールを作成します。
4. PowerCenter 開発者が Repository Manager を使用してマッピング仕様をインポートします。PowerCenter リポジトリサービスが PowerCenter オブジェクトを作成します。
5. PowerCenter 開発者は、PowerCenter Designer で PowerCenter マッピングを完了します。

PowerCenter 開発者は、Repository Manager を使用して PowerCenter メタデータをマッピング仕様にエクスポートすることもできます。

Mapping Analyst for Excel を使用して、メタデータをインポートまたはエクスポートできます。ただし、Mapping Analyst for Excel では、1 つの開発プロセス内でエクスポート、編集、インポートを組み合わせることはできません。例えば、PowerCenter マッピングを Microsoft Excel にエクスポートして、メタデータを Microsoft Excel 内で編集した後、マッピング仕様を再び PowerCenter にインポートします。インポートしたマッピングには、整合性のないメタデータが含まれる可能性があります。

## 第 2 章

# 標準マッピング仕様テンプレート

この章では、以下の項目について説明します。

- [標準マッピング仕様テンプレートの概要, 12 ページ](#)
- [Excel アドイン, 13 ページ](#)
- [標準マッピング仕様テンプレートのコピーと名前変更, 13 ページ](#)
- [ワークシートのカラムの表示, 13 ページ](#)
- [ユーザー定義プロパティ, 14 ページ](#)

## 標準マッピング仕様テンプレートの概要

標準マッピング仕様テンプレートを使用して単一マッピングまたは複数マッピングのマッピング仕様を作成します。標準マッピング仕様テンプレートには、複数の Excel ワークシートに設定されるマッピングが含まれます。このテンプレートに基づくマッピング仕様には、ソース、ターゲット、およびジョイナ、フィルタ、式、ルックアップ、アグリゲータ、Java のトランスフォーメーションを含めることができます。Repository Manager を使用してマッピング仕様をインポートし、対応する PowerCenter オブジェクトを作成します。

標準マッピング仕様テンプレートに基づくマッピング仕様を作成するには、次の手順を実行します。

1. テンプレートをコピーし、名前を変更します。
2. モデルワークシートのソースとターゲットを設定します。
3. 必要に応じてパッケージを設定します。
4. 必要に応じてドメインと列挙を設定します。
5. 必要に応じてルールを設定します。
6. マッピングを設定します。
7. トランスフォーメーションを設定します。
8. マッピング仕様を検証します。

マッピング仕様を作成する前に Mapping Analyst for Excel に含まれる Excel アドインをインストールします。Excel アドインの詳細については、[Excel Add-In \(ページ 13\)](#)を参照してください。

# Excel アドイン

Mapping Analyst for Excel には、Microsoft Excel にメタデータメニューを追加する Excel アドインが含まれます。メタデータメニューを使用してマッピング仕様を設定します。Microsoft Excel 2016 用のアドインをインストールできます。

## Excel 2016 のアドインのインストール

Excel アドインをインストールして Microsoft Excel 2016 でメタデータメニューを使用します。

1. Microsoft Excel で **【ファイル】** > **【オプション】** をクリックします。  
**【Excel のオプション】** ダイアログボックスが表示されます。
2. **【アドイン】** をクリックします。
3. **【管理】** リストから **【Excel アドイン】** を選択し **【設定】** をクリックします。  
**【アドイン】** ダイアログボックスが表示されます。
4. **【参照】** をクリックします。
5. 次のディレクトリにある Standard-Addin.xlam ファイルに移動します。  
<PowerCenterClientInstallationDir>\client\bin\mimb\conf\MIRModelBridgeTemplate\MIRMMicrosoftExcel
6. **【OK】** をクリックします。
7. **【アドイン】** ダイアログボックスで、Meta Integration Standard Add-in が選択されていることを確認し、**【OK】** をクリックします。

Microsoft Excel にマッピング仕様の設定に使用するメタデータメニューが表示されます。

## 標準マッピング仕様テンプレートのコピーと名前変更

標準マッピング仕様テンプレートに基づくマッピング仕様を作成するには、テンプレートをコピーし名前を変更します。標準マッピング仕様テンプレート Standard-Blank.xlsx は次のディレクトリにあります。

<PowerCenterClientInstallationDir>\client\bin\mimb\conf\MIRModelBridgeTemplate\MIRMMicrosoftExcel

## ワークシートのカラムの表示

マッピング仕様ワークシートを設定する場合、必須カラム、すべての使用中カラム、すべてのカラム、またはユーザー定義プロパティの入力ができるすべての追加カラムを表示できます。

1. **【メタデータ】** > **【表示または非表示】** をクリックし、次のオプションのいずれかを選択します。
  - 最小。ワークシートの必須カラムを表示します。
  - 使用中。ワークシートのすべての使用中カラムを表示します。
  - 最大。ワークシートのすべてのカラムを表示します。

- 追加。ユーザー定義プロパティを入力できる追加カラムのほかに、ワークシートのすべてのカラムを表示します。
2. ビューを変更するには [メタデータ] メニューから別のオプションを選択します。

## ユーザー定義プロパティ

ユーザー定義プロパティを使用して標準マッピング仕様テンプレートでは定義されないメタデータを追加できます。ユーザー定義プロパティを含むマッピング仕様をインポートすると、PowerCenter リポジトリサービスはそのプロパティをメタデータエクステンションとして作成します。

次のワークシートにユーザー定義プロパティを入力できます。

- モデル
- パッケージ
- ドメイン
- 列挙
- マッピング

## ユーザー定義プロパティの設定

マッピング仕様で設定されるコンポーネントのユーザー定義プロパティを定義できます。

1. [メタデータ] > [表示または非表示] > [追加] をクリックしユーザー定義プロパティのカラムを表示します。
2. カラムヘッダーにユーザー定義プロパティ名を入力します。
3. 必要に応じて名前の後の括弧内にプロパティのデータ型を追加します。有効な値は Text、Num、Date、または Bool です。次の形式を使用します。

<property\_name> (<data\_type>)

例：

Date created (Num)

値を入力しないと、Mapping Analyst for Excel はデフォルトのデータ型として Text を使用します。

4. 該当する行にユーザー定義プロパティの値を入力します。  
マッピング仕様をインポートすると、PowerCenter リポジトリサービスはそのプロパティの値があるすべてのコンポーネントにプロパティをメタデータエクステンションとして追加します。

## 第 3 章

# モデルワークシート

この章では、以下の項目について説明します。

- [モデルワークシートの概要, 15 ページ](#)
- [モデルワークシートの設定, 15 ページ](#)
- [複数のモデルワークシートの作成, 16 ページ](#)
- [モデルワークシートの検証, 16 ページ](#)
- [モデルワークシートのプロパティ, 17 ページ](#)

## モデルワークシートの概要

モデルワークシートは、ソースおよびターゲット定義を設定するために使用します。単一のモデルワークシートで、複数のソースおよびターゲット定義を設定できます。

## モデルワークシートの設定

モデルワークシートを設定するには、次のいずれかの方法でソースおよびターゲットのメタデータを入力します。

- ビジネスアナリストが、ソースおよびターゲットのメタデータをモデルワークシートに入力します。
- ソースおよびターゲットのメタデータが PowerCenter リポジトリに存在する場合、PowerCenter 開発者はソースおよびターゲット定義をマッピングに追加しますが、ポートに接続しません。その後、開発者はマッピングをマッピング仕様にエクスポートします。ビジネスアナリストは、マッピング仕様を Microsoft Excel で開いて、ソースおよびターゲットのメタデータが取り込まれたモデルワークシートを表示します。ビジネスアナリストは、モデルワークシートでソースおよびターゲットのメタデータを編集しません。

モデルワークシートにソースおよびターゲットのメタデータを入力するには、次の手順を実行します。

1. **【メタデータ】** > **【表示または非表示】** > **【最小】** をクリックして、必要なプロパティを表示します。
2. ソースまたはターゲットのメタデータが含まれているモデルの名前を入力します。
3. モデルのデータベースタイプを選択します。
4. ソースまたはターゲットスキーマの名前を入力します。
5. ソースまたはターゲットのテーブルまたはファイルの名前を入力します。
6. テーブルまたはファイルの各カラムの名前を入力します。

7. データベースタイプに有効なデータ型のリストから、各カラムのデータ型を選択します。  
ドメインワークシートに設定されているユーザー定義のドメインを入力するには、[データ型名] カラムにドメインの名前を入力します。
8. 各カラムの長さでスケールを入力します。  
カラムのデータ型にユーザー定義のドメインを選択した場合、PowerCenter リポジトリサービスはドメインワークシートに定義されているデータ型、長さ、およびスケールをカラムに割り当てます。
9. オプションのプロパティを入力するには、[メタデータ] > [表示または非表示] > [最大] をクリックします。

#### 関連項目：

- [「モデルワークシートのプロパティ」 \(ページ 17\)](#)
- [「ドメインおよび列挙ワークシートの概要」 \(ページ 24\)](#)

## 複数のモデルワークシートの作成

複数のモデルワークシートを作成できます。例えば、すべてのソース定義を定義する「ソース」という名前のモデルワークシート、およびすべてのターゲット定義を定義する「ターゲット」という名前のモデルワークシートを作成できます。

1. [メタデータ] > [ワークシートの挿入] > [モデル] をクリックします。  
マッピング仕様に新たなモデルワークシートが追加されます。
2. ワークシートの名前を変更します。  
**注:** PowerCenter リポジトリサービスはワークシートの名前をインポートしません。

## モデルワークシートの検証

標準マッピング仕様テンプレートには、モデルワークシートの検証を実行するマクロが含まれています。

モデルワークシートでは次の検証が実行されます。

- すべてのテーブルおよびカラムに名前が定義されている。
- モデルタイプが Mapping Analyst for Excel によってサポートされているタイプのいずれかである。
- 指定されたモデルタイプに対してデータ型が有効である。

1. マッピング仕様を保存します。
2. モデルワークシートで、[メタデータ] > [更新と確認] > [検証] をクリックします。  
検証によって、エラーの数を示すダイアログボックスが表示されます。
3. [OK] をクリックします。  
エラーが含まれている最初のワークシートがマッピング仕様に表示されます。エラーを含むセルは赤色で表示されます。
4. 赤色のセルの上にポインタを移動すると、セルのエラーメッセージが表示されます。
5. エラーを修正して再度検証します。



# モデルワークシートのプロパティ

モデルワークシートには以下のセクションが含まれています。

- モデル/カタログ。ソースモデルまたはターゲットモデルの名前、およびデータベースまたはファイルシステムのタイプ。
- パッケージ。モデル内のパッケージの階層。
- スキーマ。ソーススキーマまたはターゲットスキーマの名前。
- Entity/Table/Record/View。ソーステーブルまたはターゲットテーブルおよびファイルの情報。
- 属性/カラム/フィールド。ソースまたはターゲットカラムおよびフィールドの詳細。
- データ型。各カラムまたはフィールドのデータ型。

## モデル/カタログセクション

モデル/カタログセクションでは、ソースモデルまたはターゲットモデルの名前、およびデータベースタイプまたはファイルシステムのタイプを定義します。

以下の表に、モデル/カタログセクションで設定できるプロパティを示します。

プロパティ	必須/ オプション	説明
名前	必須	ソースモデルまたはターゲットモデルの名前。ソースモデルおよびターゲットモデルは、異なる名前である必要があります。 PowerCenter リポジトリサービスはこの値をインポートしません。
タイプ	必須	ソースまたはターゲットのデータベースタイプまたはファイルシステムタイプ。PowerCenter リポジトリサービスは、このデータベースタイプをソース定義またはターゲット定義に割り当てます。 Informatica は Access または MySQL データベースタイプをサポートしていません。

## パッケージセクション

パッケージセクションでは、モデル内のパッケージの階層を定義します。

パッケージ階層に各レベルの名前を入力します。パッケージセクションはオプションです。PowerCenter リポジトリサービスは、パッケージセクションの値をインポートしません。

## スキーマセクション

スキーマセクションでは、ソースまたはターゲットのスキーマ名を定義します。

以下の表に、スキーマセクションで設定できるプロパティを示します。

プロパティ	必須/ オプション	説明
名前	必須	ソーススキーマまたはターゲットスキーマの名前。PowerCenter リポジトリサービスはインポート時に、スキーマ名をソース定義のデータベース名に割り当てます。PowerCenter リポジトリサービスは、ターゲット定義のこの値をインポートしません。

## エンティティ/テーブル/レコード/ビューセクション

エンティティ/テーブル/レコード/ビューセクションでは、ソースまたはターゲットのテーブルおよびファイルの情報を定義します。

以下の表に、各ソースおよびターゲットに対して設定できるプロパティを示します。

カラム名	必須/ オプション	説明
名前	必須	テーブル名またはファイル名。PowerCenter リポジトリサービスは、PowerCenter ソース定義またはターゲット定義をこの名前で作成します。
論理のみ	オプション	テーブルまたはファイルが論理のみであるかどうかを示します。論理のみに設定する場合は true を選択します。空白値は、false を選択した場合と同じです。PowerCenter リポジトリサービスはこの値をインポートしません。デフォルトは空白です。
ビュー (SQL)	オプション	ビューの SQL 文の定義。PowerCenter リポジトリサービスはこの値をインポートしません。
ビジネス名	オプション	テーブルまたはファイルのビジネス名。PowerCenter リポジトリサービスは、この値をソース定義またはターゲット定義のビジネス名に割り当てます。値を入力しない場合、PowerCenter リポジトリサービスはビジネス名の名前を使用します。
説明	オプション	テーブルまたはファイルの論理的な説明。 [コメント] カラムに値が含まれている場合、PowerCenter リポジトリサービスは、ソース定義またはターゲット定義の Description という名前のメタデータエクステンションに [説明] の値を割り当てます。 [コメント] カラムが空白の場合、PowerCenter リポジトリサービスは、ソース定義またはターゲット定義の説明に [説明] の値を割り当てます。
コメント	オプション	テーブルまたはファイルの物理的な説明。PowerCenter リポジトリサービスは、この値をソース定義またはターゲット定義の説明に割り当てます。

カラム名	必須/ オプション	説明
次元ロール	オプション	テーブルを、次元、ファクト、またはアウトリガーとして示します。PowerCenter リポジトリサービスは、この値をソース定義またはターゲット定義の DimensionalRoleType という名前のメタデータエクステンションに割り当てます。
次元の種類	オプション	行数が一定であるか変化するかに基づいて、次元テーブルまたはアウトリガーテーブルを固定または変動として示します。PowerCenter リポジトリサービスは、この値をソース定義またはターゲット定義の DimensionalType という名前のメタデータエクステンションに割り当てます。

## 属性/カラム/フィールドセクション

属性/カラム/フィールドセクションでは、ソースまたはターゲットのカラムおよびフィールドの詳細を定義します。

以下の表に、各ソースカラムおよびターゲットカラムに設定できるプロパティを示します。

カラム名	必須/ オプション	説明
名前	必須	カラム名。PowerCenter リポジトリサービスは、ソース定義またはターゲット定義のポートをこの名前で作成します。
ビジネス名	オプション	カラムのビジネス名。PowerCenter リポジトリサービスはこの値をポートのビジネス名に割り当てます。値を入力しない場合、PowerCenter リポジトリサービスはビジネス名の名前を使用します。
説明	オプション	カラムの論理的な説明。[コメント] カラムが空白の場合、PowerCenter リポジトリサービスは、[説明] の値をポートの説明に割り当てます。
コメント	オプション	カラムの物理的な説明。PowerCenter リポジトリサービスはこの値をポートの説明に割り当てます。
位置	オプション	テーブルまたはファイルのフィールドまたはカラムの順序を示す整数。例えば、テーブルの最初のカラムの場合は、1 を入力します。値を入力しない場合、PowerCenter リポジトリサービスはワークシート上の行の順序を使用します。
プライマリキー	オプション	カラムがテーブルのプライマリキーであるかどうかを示します。テキストを入力した場合、PowerCenter リポジトリサービスはこのカラムをプライマリキーとして割り当てます。デフォルトは空白です。
代替キー	オプション	カラムがテーブルの代替キーであるかどうかを示します。PowerCenter リポジトリサービスはこの値をインポートしません。
反転キー	オプション	カラムがテーブルの反転キーであるかどうかを示します。PowerCenter リポジトリサービスはこの値をインポートしません。

カラム名	必須/ オプション	説明
インデックス	オプション	<p>カラムがターゲットテーブルのインデックスの一部であるかどうかを示します。 次の形式を使用します。</p> <p>&lt;IndexName&gt; &lt;n&gt; &lt;Asc/Dsc&gt;</p> <p>n パラメータを使用して、インデックスのカラムの順序を示します。 Asc/Dsc パラメータはオプションです。 昇順のソート順の場合は Asc、または降順のソート順の場合は Dsc を入力します。 例：</p> <p>IDX 1 Asc</p> <p>PowerCenter リポジトリサービスは、ターゲット定義のインデックス情報をインポートします。</p>
オプション判定	オプション	<p>カラムまたはフィールドで、NULL データを許可するかどうかを示します。 カラムを NULL にできない場合は No を入力します。 [No] に設定した場合、PowerCenter リポジトリサービスはこのカラムに NULL データを含めることを許可しません。</p> <p>デフォルトは [Yes] です。</p>
デフォルト値	オプション	<p>カラムまたはフィールドのデフォルト値。 PowerCenter リポジトリサービスはこの値をインポートしません。</p>
論理のみ	オプション	<p>カラムが論理のみであるかどうかを示します。 論理のみに設定する場合は true を選択します。 空白値は、false を選択した場合と同じです。 PowerCenter リポジトリサービスはこの値をインポートしません。</p> <p>デフォルトは空白です。</p>

## データ型セクション

データ型セクションでは、各カラムまたはフィールドのデータ型を定義します。

以下の表に、各ソースカラムおよびターゲットカラムに設定できるプロパティを示します。

カラム名	必須/ オプション	説明
名前	オプション	ドメインワークシートに定義されているドメインの名前。 名前を入力する場合、PowerCenter リポジトリサービスはドメインワークシートに定義されているデータ型、長さ、およびスケールをカラムに割り当てます。
ビジネス名	オプション	データ型のビジネス名。 PowerCenter リポジトリサービスはこの値をインポートしません。
データ型	必須	カラムのデータ型。データ型はデータベースタイプに対して有効である必要があります。 PowerCenter リポジトリサービスはこの値をポートのデータ型に割り当てます。
ネイティブ名	オプション	カラムのネイティブシステムのデータ型名。 例えば、char(10)です。 PowerCenter リポジトリサービスはこの値をインポートしません。

カラム名	必須/ オプション	説明
ネイティブビジネス名	オプション	カラムの論理ネイティブシステムのデータ型名。例えば、string です。PowerCenter リポジトリサービスはこの値をインポートしません。
長さ	必須	カラムの長さ。PowerCenter リポジトリサービスはこの値をポートの精度に割り当てます。
スケール	必須	カラムのスケール。PowerCenter リポジトリサービスはこの値をポートのスケールに割り当てます。

#### 関連項目：

- [「ドメインワークシートの設定」 \(ページ 25\)](#)

## 第 4 章

# パッケージワークシート

この章では、以下の項目について説明します。

- [パッケージワークシートの概要, 22 ページ](#)
- [パッケージワークシートの設定, 22 ページ](#)
- [パッケージワークシートの検証, 23 ページ](#)
- [パッケージワークシートのプロパティ, 23 ページ](#)

## パッケージワークシートの概要

パッケージワークシートを使用して、各モデル内のパッケージの階層を設定します。

パッケージワークシートはオプションです。PowerCenter リポジトリサービスは、パッケージワークシートから情報をインポートしません。パッケージを設定しない場合、このワークシートタイプをマッピング仕様から削除できます。

Microsoft Excel にマッピングをエクスポートすると、パッケージワークシートに、PowerCenter リポジトリ名とリポジトリフォルダ名がパッケージレベルとして含まれます。

## パッケージワークシートの設定

パッケージワークシートを使用して、各モデル内のパッケージの階層を設定します。パッケージワークシートを設定する前に、モデルワークシートのパッケージセクションでパッケージを設定します。

1. **【メタデータ】 > 【表示または非表示】 > 【最大】** をクリックし、すべてのプロパティを表示します。
2. モデルワークシートで定義されているモデルの名前を選択します。  
モデル名を選択すると、マッピング仕様は「[パッケージ]」セクションの残りのカラムにリストを追加し、モデルワークシートからの有効なパッケージ値を含めます。
3. 「[パッケージ]」セクションで、階層の各レベルの名前を選択します。
4. 選択したモデルに対して定義されたスキーマのリストからスキーマ名を選択します。
5. 必要に応じて、パッケージのビジネス名、説明、およびコメントを入力します。

関連項目：

- [「パッケージセクション」 \(ページ 17\)](#)
- [「パッケージワークシートのプロパティ」 \(ページ 23\)](#)

# パッケージワークシートの検証

標準マッピング仕様テンプレートには、パッケージワークシートの検証を実行するマクロが含まれます。

パッケージワークシートは、以下の検証を実行します。

- モデル、パッケージ、およびスキーマの各名前がモデルワークシートで定義されていること。

- マッピング仕様を保存します。
- パッケージワークシートで、**[メタデータ]** > **[更新と確認]** > **[検証]** をクリックします。

検証によって、エラーの数を示すダイアログボックスが表示されます。

- [OK]** をクリックします。

エラーが含まれている最初のワークシートがマッピング仕様に表示されます。エラーを含むセルは赤色で表示されます。

- 赤色のセルの上にポインタを移動すると、セルのエラーメッセージが表示されます。
- エラーを修正して再度検証します。

## パッケージワークシートのプロパティ

パッケージワークシートは、各モデル内のパッケージの階層を定義します。

以下の表に、パッケージワークシートで設定できるプロパティを示します。

プロパティ	必須/オプション	説明
モデル名	オプション	パッケージが格納されているモデルの名前。モデルワークシートで定義されているモデルのリストから選択します。
パッケージレベル $n$ の名前	オプション	パッケージレベルの名前。最大 8 個のレベルを設定できます。モデルワークシートでモデルに対して定義されているパッケージレベルのリストから選択します。
スキーマ名	オプション	パッケージが格納されているスキーマの名前。モデルワークシートで定義されているスキーマのリストから選択します。
パッケージ情報のビジネス名	オプション	パッケージレベルのビジネス名。
パッケージ情報の説明	オプション	パッケージレベルの説明。
パッケージ情報のコメント	オプション	パッケージレベルのコメント。

## 第 5 章

# ドメインおよび列挙ワークシート

この章では、以下の項目について説明します。

- [ドメインおよび列挙ワークシートの概要, 24 ページ](#)
- [ドメインワークシートの設定, 25 ページ](#)
- [列挙ワークシートの設定, 25 ページ](#)
- [複数のドメインワークシートまたは列挙子ワークシートの作成, 25 ページ](#)
- [ドメインワークシートおよび列挙子ワークシートの検証, 26 ページ](#)
- [ドメインワークシートのプロパティ, 26 ページ](#)
- [列挙ワークシートのプロパティ, 27 ページ](#)

## ドメインおよび列挙ワークシートの概要

必要に応じて、ドメインと列挙を設定してマッピング仕様内の参照データを定義できます。ドメインは参照テーブルです。列挙には、ドメインの参照テーブル値が含まれます。例えば、MovieType という名前のドメインを作成し、考えられる列挙として Action、Comedy、または Mystery を定義できます。

モデルワークシートでカラムのデータ型を設定する場合、ドメイン名を入力できます。PowerCenter リポジトリサービスは、ドメインワークシートでドメインに対して定義されたデータ型、長さ、およびスケールをカラムに適用します。

また、ルールワークシートでルールを設定する場合は、ドメインと列挙を使用できます。例えば、医療処置コードの有効な値をチェックするルールを作成するために、ProcedureCode という名前のドメインを作成します。列挙子ワークシートで、考えられるすべての ProcedureCode 値を定義します。ルールを作成して ProcedureCode ドメインを参照すると、列挙子ワークシートで定義した考えられるすべての値のリストがマッピング仕様に含まれます。

ドメインワークシートと列挙子ワークシートはオプションです。他のワークシートのドメインと列挙をマッピング仕様内で使用します。PowerCenter リポジトリサービスは、ドメインワークシートおよび列挙子ワークシートから情報をインポートしません。ドメインと列挙を設定しない場合、これらのワークシートタイプをマッピング仕様から削除できます。



関連項目：

- [「ドメインと列挙を使用したルールの例」 \(ページ 44\)](#)

## ドメインワークシートの設定

ドメインワークシートを使用してマッピング仕様内の参照テーブルを設定します。

1. **【メタデータ】** > **【表示または非表示】** > **【最小】** をクリックして、必要なプロパティを表示します。
2. ドメインが属しているモデルの名前を選択します。
3. ドメインの名前を入力します。
4. 選択したモデルに対応する有効なデータ型のリストからドメインのデータ型を選択します。
5. ドメインの長さとスケールを入力します。
6. オプションのプロパティを入力するには、**【メタデータ】** > **【表示または非表示】** > **【最大】** をクリックします。

関連項目：

- [「ドメインワークシートのプロパティ」 \(ページ 26\)](#)

## 列挙ワークシートの設定

ドメインを設定したら、列挙子ワークシートでドメインの参照値を設定します。

1. **【メタデータ】** > **【表示または非表示】** > **【最大】** をクリックし、すべてのプロパティを表示します。
2. ドメインが属しているモデルの名前を選択します。
3. 選択したモデルに対して設定されたドメインの名前を選択します。
4. 列挙名カラムには、値またはコードを入力します。  
例えば、ApprovalCode ドメインの場合、値 a および r を入力します。
5. 列挙のビジネス名の場合は、列挙値の名前を入力します。  
例えば、ApprovalCode ドメインの場合、ビジネス名 Approved および Rejected を入力します。
6. 必要に応じて、列挙値の説明を入力します。

関連項目：

- [「列挙ワークシートのプロパティ」 \(ページ 27\)](#)

## 複数のドメインワークシートまたは列挙子ワークシートの作成

複数のドメインワークシートまたは列挙子ワークシートを作成できます。例えば、200 個の列挙を持つ ProcedureCode ドメインを定義できます。ProcedureCode ドメインの列挙を含む ProcedureCode という名

前の列挙子ワークシートを作成することができます。別の列挙子ワークシートを使用して、他のすべてのドメインの列挙を含めることができます。

1. **【メタデータ】 > 【ワークシートの挿入】 > 【ドメインまたは列挙】** をクリックします。

マッピング仕様は別のドメインワークシートまたは列挙子ワークシートを追加します。

2. ワークシートの名前を変更します。

**注:** PowerCenter リポジトリサービスはワークシートの名前をインポートしません。

## ドメインワークシートおよび列挙子ワークシートの検証

標準マッピング仕様テンプレートには、ドメインワークシートおよび列挙子ワークシートの検証を実行するマクロが含まれます。

ドメインワークシートは、以下の検証を実行します。

- モデル名がモデルワークシートで定義されていること。

列挙子ワークシートは、以下の検証を実行します。

- データ型がドメインワークシートで定義されていること。
- 列挙値がドメインの正しいデータ型であること。

1. マッピング仕様を保存します。
2. モデルワークシートで、**【メタデータ】 > 【更新と確認】 > 【検証】** をクリックします。

検証によって、エラーの数を示すダイアログボックスが表示されます。

3. **【OK】** をクリックします。

エラーが含まれている最初のワークシートがマッピング仕様に表示されます。エラーを含むセルは赤色で表示されます。

4. 赤色のセルの上にポインタを移動すると、セルのエラーメッセージが表示されます。
5. エラーを修正して再度検証します。

## ドメインワークシートのプロパティ

ドメインワークシートは、マッピング仕様内の参照テーブルを定義します。

以下の表に、ドメインワークシートで設定できるプロパティを示します。

プロパティ	必須/オプション	説明
モデル名	必須	ドメインが属しているソースまたはターゲットのモデルの名前。モデルワークシートで定義されているモデルのリストから選択します。
ドメイン名	必須	ドメインの名前。

プロパティ	必須/オプション	説明
親の名前	オプション	親ドメインの名前。
ビジネス名	オプション	ドメインのビジネス名。
説明	オプション	ドメインの論理的説明。
コメント	オプション	ドメインの物理的説明。
データ型	必須	ドメインのデータ型。データ型は、モデルタイプに対応する有効なデータ型である必要があります。
ネイティブデータ型	オプション	ドメインに対するネイティブのシステムデータ型名。例えば、char(10)です。
長さ	オプション	ドメインの長さ。
スケール	オプション	ドメインのスケール。
初期値	オプション	ドメインの初期値。値の形式は、ドメインのデータ型に対応する有効な形式である必要があります。
最小値	オプション	ドメインの有効な値範囲の最小値。値の形式は、ドメインのデータ型に対応する有効な形式である必要があります。
最大値	オプション	ドメインの有効な値範囲の最大値。値の形式は、ドメインのデータ型に対応する有効な形式である必要があります。
仮想テーブル	オプション	ドメインが再利用可能かどうかを決定します。 true に設定されている場合、ドメインは再利用可能ではありません。ドメインをモデルワークシートの 1 つのカラムと関連付けることができます。 false に設定されている場合、ドメインは再利用可能です。ドメインをモデルワークシートの複数のカラムと関連付けることができます。

## 列挙ワークシートのプロパティ

列挙子ワークシートは、各ドメインの参照値を定義します。

以下の表に、列挙子ワークシートで設定できるプロパティを示します。

プロパティ	必須/オプション	説明
モデル名	必須	ドメインが属しているソースまたはターゲットのモデルの名前。モデルワークシートで定義されているモデルのリストから選択します。
ドメイン名	必須	列挙値の指定の対象であるドメインの名前。選択したモデルに対して定義されたドメインのリストから選択します。
列挙名	必須	列挙値またはコード。例えば、ApprovalCode ドメインの場合、a および r を入力します。
列挙のビジネス名	必須	列挙値またはコードに関連付けられたビジネス名。例えば、ApprovalCode ドメインの場合、Approved および Rejected を入力します。 列挙を参照するルールワークシートでルールを設定する場合、マッピング仕様に列挙のビジネス名の値が表示されます。
列挙の説明	オプション	列挙値またはコードの説明。

## 第 6 章

# マッピングワークシート

この章では、以下の項目について説明します。

- [マッピングワークシートの概要, 29 ページ](#)
- [マッピングワークシートの設定, 29 ページ](#)
- [複数のマッピングワークシートの作成, 30 ページ](#)
- [マッピングワークシートの検証, 30 ページ](#)
- [マッピングワークシートのプロパティ, 31 ページ](#)

## マッピングワークシートの概要

マッピングワークシートでは、マッピング名の設定、ソースおよびターゲットポートへの接続、集計式/非集計式の設定を実行できます。また、ルールのワークシートに定義されたルールを使用することもできます。

1つのマッピングワークシートで複数のマッピングを設定できます。

## マッピングワークシートの設定

マッピングワークシートを使用して、ソースおよびターゲットポートへの接続、式の設定を行うことができます。

単一のソースポートを単一のターゲットポートに接続するには、同一行のソースカラムとターゲットカラムを選択します。

複数のソースポートを単一のターゲットポートに接続するには、連続する行でソースカラムを選択してから、先頭行のターゲットカラムを選択します。空のセルをマージするには Microsoft Excel を使用します。住所ソースの各カラム（番地、市区町村、都道府県、郵便番号）を Emp\_tbl ターゲットの住所カラムに接続できます。

1. **【メタデータ】 > 【表示または非表示】 > 【最小】** をクリックして、必要なプロパティを表示します。
2. **【マッピング名】** カラムにマッピング名を入力します。  
PowerCenter リポジトリサービスは、この名前をマッピングに割り当てます。
3. ソースモデル名を入力します。ソースモデル名はモデルワークシートに定義したモデル名と一致している必要があります。

モデル名を入力すると、マッピング仕様によって、モデルワークシートに定義されている有効な値のリストが **【ソース】** セクションの残りのカラムに追加されます。

4. 設定する各ソースポートについて、ソーススキーマ名、テーブル名、カラム名を選択します。
5. **【メタデータ】** > **【更新と確認】** > **【注釈】** をクリックします。  
マッピング仕様によって、モデルワークシートに定義された各カラムのビジネス名、説明、データ型が追加されます。
6. 手順 [3](#)～[5](#) を繰り返して、各接続ターゲットポートを設定します。  
PowerCenter リポジトリサービスによって、ワークシートの同一行にあるソースカラムとターゲットカラムが接続されます。
7. **【メタデータ】** > **【表示または非表示】** > **【最大】** をクリックして、**【マッピング仕様の式】** セクションを表示します。
8. 必要に応じて、集計式、非集計式、またはルールを **【マッピング仕様の式】** カラムに入力してデータを変換します。

#### 関連項目：

- [「マッピング仕様セクション」 \(ページ 32\)](#)
- [「マッピングワークシートのプロパティ」 \(ページ 31\)](#)

## 複数のマッピングワークシートの作成

1 つのマッピングワークシートで複数のマッピングを設定できます。または、追加のマッピングワークシートを作成して、異なるワークシート上に各マッピングを設定することもできます。

1. **【メタデータ】** > **【ワークシートの挿入】** > **【マッピング】** をクリックします。  
マッピング仕様によって別のマッピングワークシートが追加されます。
2. ワークシートの名前を変更します。  
**注:** PowerCenter リポジトリサービスはワークシートの名前をインポートしません。

## マッピングワークシートの検証

標準のマッピング仕様テンプレートには、マッピングワークシートの検証を実行するためのマクロが含まれています。

マッピングワークシートは、以下の検証を実行します。

- モデル、スキーマ、テーブル、カラムがモデルワークシートに定義されていること。
- マッピングで使用している関数が Mapping Analyst for Excel でサポートされていること。
- 式で使用されているカラムがモデルワークシートに定義されていること。
- ルールがルールワークシートに定義されていること。

1. マッピング仕様を保存します。
2. マッピングワークシートで、**【メタデータ】** > **【更新と確認】** > **【検証】** をクリックします。  
検証によって、エラーの数を示すダイアログボックスが表示されます。
3. **【OK】** をクリックします。

エラーが含まれている最初のワークシートがマッピング仕様に表示されます。エラーを含むセルは赤色で表示されます。

4. 赤色のセルの上にポインタを移動すると、セルのエラーメッセージが表示されます。
5. エラーを修正して再度検証します。

## マッピングワークシートのプロパティ

次の各セクションで、マッピングワークシートのプロパティを設定できます。

- マッピング。マッピングの名前と説明。
- ソースとターゲット。ソースポートとターゲットポート間の接続。
- マッピング仕様。集計式、非集計式、およびルール。

### マッピングセクション

[マッピング名] カラムにマッピングの名前を入力します。PowerCenter リポジトリサービスは、この名前をマッピングに割り当てます。

必要に応じて、マッピングの説明を入力します。PowerCenter リポジトリサービスはこの値をインポートしません。

### ソースとターゲットセクション

[ソースとターゲット] セクションには、接続先のソースデータとターゲットデータが含まれます。PowerCenter リポジトリサービスによって、同一行に設定されたソースカラムとターゲットカラムが接続されます。

次の表に、[ソースとターゲット] セクションで設定可能なプロパティを示します。

プロパティ	必須/オプション	説明
モデル	必須	ソースモデルまたはターゲットモデルの名前。ソースモデル名はモデルワークシートに定義したモデル名と一致している必要があります。 最初にモデルプロパティを入力してください。マッピング仕様によって、有効な値のリストが残りのカラムに追加されます。
スキーマ	必須	ソーススキーマまたはターゲットスキーマの名前。モデルに定義されているスキーマのリストから選択します。
テーブル	必須	ソースまたはターゲットのテーブルまたはファイルの名前。スキーマに定義されているテーブルのリストから選択します。
カラム	必須	ソースカラムまたはターゲットカラムの名前。テーブルまたはファイルに定義されているカラムのリストから選択します。

## マッピング仕様セクション

「マッピング仕様」セクションでは、次のマッピングコンポーネントを設定できます。

- 集計式
- 非集計式
- ルール

式またはルールを設定すると、PowerCenter 統合サービスがソースからターゲットにデータを移動する際にデータを変換できます。行に式またはルールが設定されていない場合、PowerCenter 統合サービスはデータを一切変更せずにソースからターゲットに渡します。

### 集計式

集計式を設定すると、ポート内の複数の値に対して計算を実行できます。集計式は、マッピングワークシートの「マッピング仕様の式」セクションで設定します。マッピング仕様に定義された集計式は、PowerCenter マッピングのアグリゲータトランスフォーメーションになります。集計式を記述するには、PowerCenter トランスフォーメーション言語を使用します。

ポートの複数の値に計算を実行するには集計関数を使用します。例えば、次の集計式は、SALES テーブルの Quantity ポートのすべての値を評価し、最高値を返します。

```
MAX(SALES.Quantity)
```

集計式では、集計関数、条件句、非集計関数を使用できます。ある集計関数を別の集計関数にネストすることもできます。以下に例を示します。

```
MAX( COUNT( SALES.Quantity))
```

集計式は、戻り値を書き込む行の「式」カラムに定義します。

必要に応じて、式の説明を追加します。PowerCenter リポジトリサービスは、この値をアグリゲータトランスフォーメーションの式の説明に割り当てます。

以下の表に、T\_Sales ターゲットテーブルの StoreSales ポートに設定された集計式を示します。

ソーススキーマ	ソーステーブル	ソースカラム	式	ターゲットカラム	ターゲットテーブル	ターゲットスキーマ
Sales	Sales	Transaction Amount	SUM(TransactionAmount)	StoreSales	T_Sales	DM

### 集計式の値のグループ化

PowerCenter では、アグリゲータトランスフォーメーションのグループ別ポートを使用して集計計算の値をグループ化できます。集計式の結果は設定するグループ別ポートに応じて変わります。

例えば、PowerCenter 統合サービスで、グループ別ポートを定義せずに以下の集計式を計算すると、全トランザクションの合計売上高が算出されます。

```
SUM( SALES.TransactionAmount )
```

一方、同じ式で StoreID ポート別にグループ分けを指定すると、PowerCenter 統合サービスは店舗 ID ごとの合計売上高を返します。

PowerCenter 開発者がマッピング仕様をインポートすると、PowerCenter リポジトリサービスによって、ターゲットに定義された各集計式に対応するアグリゲータトランスフォーメーションが作成されます。集計式が指定されていないアグリゲータトランスフォーメーションのポートは、グループ別ポートになります。



使用するグループ別ポートを指定するには、[マッピング仕様の説明] カラムを使用します。PowerCenter 開発者は、マッピング仕様をインポートした後、アグリゲータトランスフォーメーションの情報を確認し、必要に応じてグループ別ポートを設定できます。

## 非集計式

ポート内の行ごとに単一行の値を計算する式を設定できます。それには、マッピングワークシートの [マッピング仕様の式] セクションに式を設定します。マッピング仕様に定義された式は、PowerCenter マッピングの式トランスフォーメーションになります。非集計式を記述するには、PowerCenter トランスフォーメーション言語を使用します。

式を使用して、ポート内の行ごとに単一行の値を計算できます。例えば、次の式は、各項目の経費を 5%増やします。

```
INVENTORY.Cost + (INVENTORY.Cost * .05)
```

非集計式では、条件句および非集計関数を使用できます。非集計関数をネストすることもできます。

集計式は、戻り値を書き込む行の [式] カラムに定義します。

必要に応じて、式の説明を追加します。PowerCenter リポジトリサービスは、この値を式トランスフォーメーションの式の説明に割り当てます。

## ルール

ルールワークシートに定義されたルールを入力できます。マッピングワークシートの [マッピング仕様の式] セクションに次の形式でルール名を入力します。

```
%<rule_name>%
```

マッピング仕様に定義したルールは、PowerCenter マッピングの Java トランスフォーメーションになります。ルールワークシートに定義したルールは、マッピングワークシートで何度でも再利用できます。

必要に応じて、ルールの説明を追加してください。ルールの説明は、PowerCenter リポジトリサービスによってインポートされません。

## 関連項目：

- [「ルールワークシートの設定」 \(ページ 45\)](#)

## 第 7 章

# 結合ワークシート、ルックアップワークシート、フィルタワークシート

この章では、以下の項目について説明します。

- [結合ワークシート、ルックアップワークシート、およびフィルタワークシートの概要, 34 ページ](#)
- [ジョイナトランスフォーメーション, 35 ページ](#)
- [ルックアップトランスフォーメーション, 37 ページ](#)
- [フィルタトランスフォーメーション, 40 ページ](#)
- [複数の結合、フィルタ、ルックアップの各ワークシートの作成, 41 ページ](#)
- [結合、ルックアップ、フィルタの各ワークシートの検証, 41 ページ](#)

## 結合ワークシート、ルックアップワークシート、およびフィルタワークシートの概要

マッピング仕様には、次のトランスフォーメーションを追加できます。

- ジョイナトランスフォーメーション。ジョイナトランスフォーメーションは、結合ワークシートで設定します。
- ルックアップトランスフォーメーション。ルックアップトランスフォーメーションは、ルックアップワークシートおよびマッピングワークシートで設定します。
- フィルタトランスフォーメーション。フィルタトランスフォーメーションは、フィルタワークシートで設定します。

サポートされているトランスフォーメーションタイプごとに複数のトランスフォーメーションを設定できます。

マッピング仕様には、マッピング内のトランスフォーメーションの順序は定義されません。マッピング仕様をインポートするとき、PowerCenter リポジトリサービスは特定の順序でトランスフォーメーションをマッピングに追加します。ソース定義の後で、PowerCenter リポジトリサービスはジョイナ、ルックアップ、フィルタ、式、Java、およびアグリゲータの各トランスフォーメーションを追加してから、ターゲット定義を追加します。PowerCenter 開発者は、マッピングの編集やトランスフォーメーションの順序の変更を行うことができます。

# ジョイナトランスフォーメーション

異なる場所またはファイルシステムに存在する 2 つの関連する異種ソースからのソースデータを結合できます。ソースデータを結合するには、2 つのソース間で 1 つ以上のカラムのペアを一致させます。結合は結合ワークシートで設定します。マッピング仕様に指定した結合は、PowerCenter マッピングのジョイナトランスフォーメーションになります。

## 結合ワークシートの設定

結合ワークシートを使用して、2 つの関連する異種ソースからのソースデータを結合します。

1. **【メタデータ】 > 【表示または非表示】 > 【最大】** をクリックし、すべてのプロパティを表示します。
2. **【マッピング名】** カラムにマッピング名を入力します。  
PowerCenter リポジトリサービスによって、このマッピングにジョイナトランスフォーメーションが作成されます。
3. **【左モデル】** カラムに、左テーブルまたはマスタテーブルが所属するソースモデルの名前を入力します。  
ソースモデル名はモデルワークシートに定義したモデル名と一致している必要があります。  
モデル名を入力すると、マッピング仕様によって、モデルワークシートに定義されている有効な値のリストが **【左】** セクションの残りのカラムに追加されます。
4. 結合する左カラムの左スキーマ名、テーブル名、カラム名を選択します。
5. **【メタデータ】 > 【更新と確認】 > 【注釈】** をクリックします。  
マッピング仕様によって、モデルワークシートに定義された各カラムのビジネス名、説明、データ型が追加されます。
6. 結合タイプとして、内部、左、右、外部のいずれかを選択します。
7. 手順 3 から 5 を繰り返して、左テーブルまたはマスタテーブルと結合する右モデル、スキーマ、テーブル、およびカラムを選択します。
8. 必要に応じて、結合の説明を入力します。

## 結合ワークシートのプロパティ

結合ワークシートでは、PowerCenter ジョイナトランスフォーメーションを定義します。

PowerCenter リポジトリサービスは、次の構文を使用してジョイナトランスフォーメーションに名前を付けます。

```
JNR_<LeftTableName>_join_<RightTableName>
```

以下の表に、結合ワークシートで設定できるプロパティを示します。

プロパティ	必須/オプション	説明
マッピング名	必須	結合用のマッピングの名前。PowerCenter リポジトリサービスによって、このマッピングにジョイナトランスフォーメーションが作成されます。
左モデル	必須	左テーブルまたはマスタテーブルが所属するソースモデルの名前。ソースモデル名はモデルワークシートに定義したモデル名と一致している必要があります。 最初にモデルプロパティを入力してください。マッピング仕様によって、有効な値のリストが残りのカラムに追加されます。
左スキーマ	必須	左テーブルまたはマスタテーブルが所属するスキーマの名前。モデルに定義されているスキーマのリストから選択します。
左テーブル	必須	左テーブルの名前。スキーマに定義されているテーブルのリストから選択します。
左カラム	必須	結合する左カラムの名前。テーブルに定義されたカラムのリストから選択します。
結合タイプ	必須	ジョイナトランスフォーメーションの結合のタイプ。次のいずれかのタイプを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- LEFT. 左外部結合。PowerCenter リポジトリサービスによって、マスタ外部結合を使用したジョイナトランスフォーメーションが作成されます。</li> <li>- RIGHT. 右外部結合。PowerCenter リポジトリサービスによって、明細外部結合を使用したジョイナトランスフォーメーションが作成されます。</li> <li>- INNER. 内部結合。PowerCenter リポジトリサービスによって、ノーマル結合を使用したジョイナトランスフォーメーションが作成されます。</li> <li>- OUTER. 外部結合。PowerCenter リポジトリサービスによって、完全外部結合を使用したジョイナトランスフォーメーションが作成されます。</li> </ul>
右モデル	必須	右テーブルまたは詳細テーブルが所属するソースモデルの名前。ソースモデル名はモデルワークシートに定義したモデル名と一致している必要があります。 最初にモデルプロパティを入力してください。マッピング仕様によって、有効な値のリストが残りのカラムに追加されます。
右スキーマ	必須	右テーブルまたは詳細テーブルが所属するスキーマの名前。モデルに定義されているスキーマのリストから選択します。
右テーブル	必須	右テーブルの名前。スキーマに定義されているテーブルのリストから選択します。
右カラム	必須	結合する右カラムの名前。テーブルに定義されたカラムのリストから選択します。
結合の説明	オプション	結合の説明。PowerCenter リポジトリサービスは、この値をジョイナトランスフォーメーションの説明に割り当てます。

# ルックアップトランスフォーメーション

マッピングパイプラインの外部のデータを検索するためのルックアップを設定できます。マッピング仕様に定義されたルックアップは、PowerCenter マッピングの接続されたルックアップトランスフォーメーションになります。

マッピング仕様に定義されたすべてのテーブルに対してルックアップを実行できます。

ルックアップを作成するには、次の情報を定義します。

- ルックアップワークシートのルックアップ条件。PowerCenter 統合サービスは、ルックアップ条件を使用してルックアップテーブルのデータを検索します。ルックアップ条件は、SQL クエリの WHERE 句に似ています。
- マッピングワークシートの戻り値。ルックアップ条件が満たされると、PowerCenter 統合サービスはルックアップテーブルから値を返します。

## ルックアップの例

StoreSales ソーステーブル、Revenue ソースルックアップテーブル、および T\_Sales ターゲットテーブルがあるとします。

以下の表に、モデルワークシートに設定されたソースとターゲットを示します。

モデル名	モデルタイプ	スキーマ名	テーブル名	カラム名
SalesDB	Oracle	Sales	StoreSales	StoreID
-	-	-	-	TransactionDate
-	-	-	-	TransactionAmount
-	-	-	Revenue	StoreID
-	-	-	-	MonthlyRevenue
DMMModel	Oracle	DM	T_Sales	StoreID
-	-	-	-	TransactionDate
-	-	-	-	TransactionAmount
-	-	-	-	MonthlyRevenue

StoreSales テーブルの各 StoreID カラムについて Revenue テーブルの StoreID カラムを検索し、T\_Sales ターゲットに MonthlyRevenue 値を返す必要があります。

ルックアップワークシートにルックアップテーブルとルックアップ条件を定義します。ルックアップ条件では、検索対象のソーステーブル内のカラムを完全に修飾する必要があります。

以下の表に、ルックアップワークシートにルックアップテーブルとルックアップ条件を定義する方法を示します。

ルックアップモデル	ルックアップスキーマ	ルックアップテーブル	ルックアップ条件
SalesDB	Sales	Revenue	StoreID= SalesDB.Sales.StoreSales.StoreID

マッピングワークシートには、ルックアップ条件が満たされたときに返す値を定義します。 MonthlyRevenue ターゲットカラムが定義されている行で、MonthlyRevenue というルックアップテーブルカラムをターゲットに接続するソースとして選択します。

以下の表に、マッピングワークシートの単一行に戻り値を定義する方法を示します。

ソースモデル	ソーススキーマ	ソーステーブル	ソースカラム	ターゲットカラム	ターゲットテーブル	ターゲットスキーマ	ターゲットモデル
SalesDB	Sales	Revenue	MonthlyRevenue	MonthlyRevenue	T_Sales	DM	DMModel

## ルックアップ条件の設定

ルックアップワークシートを使用して、マッピングパイプラインの外部のデータを検索するためのルックアップ条件を設定します。

1. ルックアップワークシートで、**【メタデータ】** > **【表示または非表示】** > **【最大】** をクリックして、すべてのプロパティを表示します。
2. **【マッピング名】** カラムにマッピング名を入力します。  
PowerCenter リポジトリサービスによって、このマッピングにルックアップトランスフォーメーションが作成されます。
3. **【ルックアップモデル】** カラムに、ルックアップテーブルが所属するモデルの名前を入力します。ソースモデル名はモデルワークシートに定義したモデル名と一致している必要があります。  
モデル名を入力すると、マッピング仕様によって、モデルワークシートに定義されている有効な値のリストが **【ルックアップ】** セクションの残りのカラムに追加されます。
4. ルックアップスキーマとテーブルを選択します。
5. **【メタデータ】** > **【更新と確認】** > **【注釈】** をクリックします。  
マッピング仕様によって、モデルワークシートに定義された各カラムのビジネス名、説明、データ型が追加されます。
6. **【条件】** カラムに、次の形式でルックアップ条件を入力します。  
<LookupTableColumn><operator><SourceModelName>.<SchemaName>.<TableName>.<ColumnName>  
次のいずれかの演算子または演算子の組み合わせを使用できます。  
=, <, <=, >, >=, !=
7. 必要に応じて、ルックアップの説明を入力します。

## ルックアップの戻り値の設定

マッピングワークシートを使用して、ルックアップ条件が満たされたときの戻り値を設定します。

1. マッピングワークシートで、**【メタデータ】** > **【表示または非表示】** > **【最小】** をクリックして、必要なプロパティを表示します。
2. ルックアップ値を戻す先のターゲットモデル名を入力します。ソースモデル名はモデルワークシートに定義したモデル名と一致している必要があります。  
モデル名を入力すると、マッピング仕様によって、モデルワークシートに定義されている有効な値のリストが**【ターゲット】**セクションの残りのカラムに追加されます。
3. ルックアップ値を戻す先のターゲットカラムのターゲットスキーマ名、テーブル名、カラム名を選択します。
4. **【メタデータ】** > **【更新と確認】** > **【注釈】** をクリックします。  
マッピング仕様によって、モデルワークシートに定義された各カラムのビジネス名、説明、データ型が追加されます。
5. ターゲットカラムと同じ行で、ターゲットに返すルックアップテーブルカラムのソースモデル名、スキーマ名、テーブル名、カラム名を選択します。
6. **【メタデータ】** > **【表示または非表示】** > **【最大】** をクリックして、**【マッピング仕様の式】** セクションを表示します。
7. ルックアップ条件が満たされると、ソースカラム値がターゲットカラムに書き込まれる旨を記述した行の説明を必要に応じて入力します。

## ルックアップワークシートのプロパティ

ルックアップワークシートに、ルックアップトランスフォーメーションのルックアップ条件を定義します。

以下の表に、ルックアップワークシートで設定できるプロパティを示します。

プロパティ	必須/オプション	説明
マッピング名	必須	このルックアップのマッピングの名前。PowerCenter リポジトリサービスによって、このマッピングにルックアップトランスフォーメーションが作成されます。
ルックアップモデル	必須	ルックアップテーブルが所属するモデルの名前。ソースモデル名はモデルワークシートに定義したモデル名と一致している必要があります。 最初にモデルプロパティを入力してください。マッピング仕様によって、有効な値のリストが残りのカラムに追加されます。
ルックアップスキーマ	必須	ルックアップテーブルが所属するスキーマの名前。モデルに定義されているスキーマのリストから選択します。
ルックアップテーブル	必須	ルックアップテーブル名。スキーマに定義されているテーブルのリストから選択します。PowerCenter リポジトリサービスは、このルックアップテーブル名をルックアップトランスフォーメーションの名前として使用します。

プロパティ	必須/オプション	説明
ルックアップ条件	必須	<p>以下の形式を使用するルックアップ条件。</p> <pre>&lt;LookupTableColumn&gt;&lt;operator&gt;&lt;SourceModelName&gt;.&lt;SchemaName&gt;.&lt;TableName&gt;.&lt;ColumnName&gt;</pre> <p>次のいずれかの演算子または演算子の組み合わせを使用できます。</p> <p>=, &lt;, &lt;=, &gt;, &gt;=, !=</p> <p>ソースカラムは、所有するテーブル名、スキーマ名、モデル名で完全に修飾する必要があります。</p> <p>例えば、ソースデータに code カラムが含まれているとします。ルックアップテーブルには、ID および name カラムがあります。このとき、次のようなルックアップ条件を設定します。</p> <pre>ID = PersonnelDB.Employment.Company.code</pre> <p>各コードについて、PowerCenter 統合サービスは、ルックアップテーブルから name カラムを返します。戻り値は、マッピングワークシートで設定します。</p>
ルックアップの説明	オプション	<p>ルックアップの説明。PowerCenter リポジトリサービスは、この値をルックアップトランスフォーメーションの説明に割り当てます。</p>

## フィルタトランスフォーメーション

マッピングパイプラインからソースデータを削除するためのフィルタを設定できます。フィルタは、フィルタワークシートで設定します。マッピング仕様に定義されたフィルタは、PowerCenter マッピングのフィルタトランスフォーメーションになります。

フィルタを設定するにはフィルタ条件を定義します。フィルタ条件は、TRUE または FALSE を返す式です。フィルタ条件には、ソースモデル名、スキーマ名、テーブル名、カラム名を次の形式で指定する必要があります。

```
<SourceModelName>.<SchemaName>.<TableName>.<ColumnName>
```

例えば、戻り値など、負の値を含むトランザクションを除外するには、次の式を使用します。

```
PurchasingDB.Sales.SALES.TransactionAmount > 0
```

AND および OR 論理演算子を使用して、1 つの条件に複数のコンポーネントを指定することもできます。

## フィルタワークシートのプロパティ

フィルタワークシートにはフィルタトランスフォーメーションを定義します。



以下の表に、フィルタワークシートで設定できるプロパティを示します。

プロパティ	必須/オプション	説明
マッピング名	必須	このフィルタのマッピングの名前。PowerCenter リポジトリサービスによって、このマッピングにフィルタトランスフォーメーションが作成されます。
フィルタ条件	必須	TRUE または FALSE を返すフィルタ条件。フィルタ条件には、ソースモデル名、スキーマ名、テーブル名、カラム名を次の形式で指定する必要があります。  <code>&lt;SourceModelName&gt;.&lt;SchemaName&gt;.&lt;TableName&gt;.&lt;ColumnName&gt;</code> これらの名前はモデルワークシートに定義した名前と一致している必要があります。 例えば、戻り値など、負の値を含むトランザクションを除外するには、次の式を使用します。 <code>PurchasingDB.Sales.SALES.TransactionAmount &gt; 0</code> AND および OR 論理演算子を使用して、1 つの条件に複数のコンポーネントを指定することもできます。
フィルタの説明	オプション	フィルタの説明。PowerCenter リポジトリサービスは、この値をフィルタトランスフォーメーションの説明に割り当てます。

## 複数の結合、フィルタ、ルックアップの各ワークシートの作成

1 つのワークシート上に、複数のジョイナトランスフォーメーション、フィルタトランスフォーメーション、およびルックアップトランスフォーメーションを定義できます。または、複数の結合ワークシート、フィルタワークシート、ルックアップワークシートを作成して、各ワークシートタイプに 1 つのトランスフォーメーションを定義することもできます。

1. **【メタデータ】 > 【ワークシートの挿入】 > 【結合】【ルックアップ】、または【フィルタ】** をクリックします。  
マッピング仕様により、新しい結合ワークシート、フィルタワークシート、またはルックアップワークシートが追加されます。
2. ワークシートの名前を変更します。  
**注:** PowerCenter リポジトリサービスはワークシートの名前をインポートしません。

## 結合、ルックアップ、フィルタの各ワークシートの検証

標準マッピング仕様テンプレートには、結合、ルックアップ、フィルタの各ワークシートの検証を実行するためのマクロが含まれています。

結合、ルックアップ、フィルタの各ワークシートでは、次の検証が実行されます。

- マッピング名がマッピングワークシートで定義されていること。
- モデル名、スキーマ名、テーブル名、カラム名が、モデルワークシートに定義されている名前と一致していること。

1. マッピング仕様を保存します。

2. 結合、ルックアップ、またはフィルタワークシートで、**【メタデータ】** > **【更新と確認】** > **【検証】** をクリックします。

検証によって、エラーの数を示すダイアログボックスが表示されます。

3. **【OK】** をクリックします。

エラーが含まれている最初のワークシートがマッピング仕様に表示されます。エラーを含むセルは赤色で表示されます。

4. 赤色のセルの上にポインタを移動すると、セルのエラーメッセージが表示されます。

5. エラーを修正して再度検証します。

## 第 8 章

# ルールワークシート

この章では、以下の項目について説明します。

- [ルールワークシートの概要, 43 ページ](#)
- [ルールワークシートの設定, 45 ページ](#)
- [ルールワークシートの書式設定, 46 ページ](#)
- [複数のルールワークシートの作成, 46 ページ](#)
- [ルールワークシートの検証, 46 ページ](#)
- [ルールワークシートのプロパティ, 47 ページ](#)

## ルールワークシートの概要

ルールワークシートを使用し、マッピングワークシートで式として使用できる再利用可能なルールを定義します。マッピング仕様のルールを使用して、簡易データクレンジングを実行します。

ルールワークシートで定義されたルールを含むマッピング仕様をインポートすると、PowerCenter リポジトリサービスでルールの Java トランスフォーメーションが作成されます。マッピング仕様入力パラメータは Java トランスフォーメーション入力ポート、ルール式は Java コード、出力結果は出力ポートです。

**注:** Java トランスフォーメーションが含まれる PowerCenter マッピングをエクスポートすると、PowerCenter リポジトリサービスで Java トランスフォーメーションはマッピング仕様にエクスポートされません。

ルールを設定すると、ドメインおよび列挙ワークシートで定義されたドメインと列挙を必要に応じて使用できます。ルールワークシートのパラメータ値を指定する場合、列挙ワークシートで定義された使用可能な参照値のリストから選択できます。

ルールワークシートはオプションです。ルールを設定しない場合、マッピング仕様からワークシートタイプを削除できます。

## ルールの例

ルールは条件付き文で、入力パラメータを取り、パラメータに対し計算を実行して、出力パラメータを生成します。

例えば、FullName という名前のルールを作成するとします。ルールでは fname と lname を入力パラメータとして使用し、パラメータを連結し、その結果を FullName という名前の出力パラメータに割り当てます。

以下の表に、ルールワークシートで設定する必須カラム示します。

ルール名	Parameter1 の名前	Parameter2 の名前	Result1 の名前	式
FullName	fname	lname	FullName	(fname + " " + lname)

マッピングワークシートで、ルール名を式として追加し、ソースカラム first\_name と last\_name をターゲットカラム full\_name に接続します。次の形式を使用してルール名を入力します。

%FullName%

PowerCenter リポジトリサービスがマッピング仕様をインポートする場合、FullName という名前の Java トランスフォーメーションを作成します。トランスフォーメーションでは fname と lname を入力ポートとして、FullName を出力ポートとして使用します。トランスフォーメーションには次の Java コードが含まれます。

```
if(true) {  
    FullName=fname + " " + lname;  
}
```

## ドメインと列挙を使用したルールの例

ドメインワークシートで定義される参照テーブル、および列挙ワークシートのドメインに定義される参照値のリストを参照するルールを作成できます。

例えば、ドメインワークシートで CreditStatus という名前のドメインを作成するとします。

以下の表に、列挙ワークシートのドメインの定義に使用可能な値を示します。

列挙名	列挙のビジネス名
1	不良
2	正常
3	良好

信用スコアをチェックし、信用ステータスを割り当てるルールを作成します。ルールを設定する場合、CreditStatus ドメインをルール出力パラメータのデータ型として選択します。結果カラムで、CreditStatus ドメインに定義された列挙型ビジネス名の値を選択します。

以下の表に、ルールワークシートで設定する必須カラム示します。

ルール名	Parameter1 の名前	Parameter1 の値	Result1 の名前	データ型	結果
GetCreditStatus	credit	>710	creditStatus	CreditStatus	良好
-	-	in(650,709)	-	-	正常
-	-	*	-	-	不良

マッピングワークシートで、ソースカラム credit をターゲットカラム creditStatus に接続する式としてルール名を追加します。次の形式を使用してルール名を入力します。

%GetCreditStatus%

PowerCenter リポジトリサービスがマッピング仕様をインポートする場合、GetCreditStatus という名前の Java トランスフォーメーションを作成します。トランスフォーメーションでは credit を入力ポートとして、creditStatus を出力ポートとして使用します。トランスフォーメーションには、ビジネス名（良好、正常、不良）ではなく、CreditStatus 列挙名（3、2、1）を使用する次の Java コードが含まれます。

```
if(credit>710) {  
    creditStatus=3;  
}  
else  
if(credit==650 || credit==709) {  
    creditStatus=2;  
}  
else  
if(true) {  
    creditStatus=1;  
}  
}
```

#### 関連項目：

- [「ドメインおよび列挙ワークシートの概要」 \(ページ 24\)](#)

## ルールワークシートの設定

ルールワークシートを使用してマッピングワークシートの式として使用できる再利用可能なルールを設定します。

1. **【メタデータ】** > **【表示または非表示】** > **【最大】** をクリックし、すべてのプロパティを表示します。
2. ルール名カラムにルール名を入力します。
3. モデルワークシートで定義されるモデルのリストからソースモデル名を選択します。
4. 名前、データ型、入力パラメータの値を入力します。

ドメインワークシートでドメインを定義した場合、データ型のドメイン名を選択できます。

5. 手順 [4](#) を繰り返してルールのその他の入力パラメータを設定します。
6. モデルワークシートで定義されるモデルのリストからターゲットモデル名を選択します。
7. 名前、データ型、出力結果の式を入力します。

ドメインワークシートでドメインを定義した場合、データ型のドメイン名を選択できます。

8. 手順 [7](#) を繰り返してルールのその他の出力結果を設定します。
9. **【メタデータ】** > **【更新と確認】** > **【注釈】** をクリックします。

マッピング仕様は、モデルワークシートに定義される各モデルおよびドメインワークシートに定義される各ドメインに対して、ビジネス名、説明、およびデータ型を追加します。

ルールを設定後、該当するソースおよびターゲット行のマッピングワークシートにルール名を式として入力します。次の形式を使用します。

```
%<rule_name>%
```

#### 関連項目：

- [「ルールワークシートのプロパティ」 \(ページ 47\)](#)
- [「ルール」 \(ページ 33\)](#)

## ルールワークシートの書式設定

ルールワークシートは、ルールパラメータ名をカラムヘッダーにして、ルールが1つずつ表示されるように書式設定することができます。複数のルールを設定した場合は、ルールが読みやすくなるようにルールワークシートを書式設定することもできます。

1. 表示する1つのルールを選択します。
2. **【メタデータ】 > 【更新と確認】 > 【形式】** をクリックします。  
マッピング仕様に、より読みやすい形式で選択されたルールが表示されます。例えば、デフォルトのワークシートビューにはパラメータ名カラムとパラメータ値カラムが含まれます。書式設定後、ワークシートにはパラメータ名がカラムヘッダーとして一覧表示され、パラメータ値がその下に一覧表示されます。
3. すべてのルールを再度表示するには **【メタデータ】 > 【更新と確認】 > 【形式】** をクリックします。

## 複数のルールワークシートの作成

複数のルールワークシートを作成できます。例えば、多数のルールを設定する場合、個別のワークシートのルールをグループ化することができます。

1. **【メタデータ】 > 【ワークシートの挿入】 > 【ルール】** をクリックします。  
マッピング仕様にルールワークシートが1つ追加されます。
2. ワークシートの名前を変更します。  
**注:** PowerCenter リポジトリサービスはワークシートの名前をインポートしません。

## ルールワークシートの検証

標準マッピング仕様テンプレートにはルールワークシートの検証を実行するマクロが含まれます。

ルールワークシートは、以下の検証を実行します。

- ルールに、モデルワークシートで定義されたソースおよびターゲットモデルへの参照が含まれること。
  - パラメータのデータ型は、選択されたモデルタイプに対して有効であるか、ドメインワークシートで設定されたユーザー定義データ型であること。
  - ルールには少なくとも、1つの入力パラメータと1つの出力結果が含まれること。
1. マッピング仕様を保存します。
  2. ルールワークシートで、**【メタデータ】 > 【更新と確認】 > 【検証】** をクリックします。  
検証によって、エラーの数を示すダイアログボックスが表示されます。
  3. **【OK】** をクリックします。  
エラーが含まれている最初のワークシートがマッピング仕様に表示されます。エラーを含むセルは赤色で表示されます。
  4. 赤色のセルの上にポインタを移動すると、セルのエラーメッセージが表示されます。
  5. エラーを修正して再度検証します。

# ルールワークシートのプロパティ

ルールワークシートには次のセクションが含まれます。

- ルール。ルールの名前と説明。
- ソース。入力パラメータ。
- ターゲット。出力結果。

## ルールセクション

ルールセクションにはルール名と説明が含まれます。

以下の表に、ルールセクションで設定できるプロパティを示します。

プロパティ	必須/ オプション	説明
名前	必須	ルールの名前。各ルール名は一意の必要があり、PowerCenter トランスフォーメーション言語の関数または予約語は使用できません。 マッピングでルールを使用するには、マッピングワークシートの式カラムでパーセント文字内にルール名を入力します。例： <code>%&lt;rule_name&gt;%</code> PowerCenter リポジトリサービスはこの名前を Java トランスフォーメーションに割り当てます。
説明	オプション	ルールの説明。PowerCenter リポジトリサービスはこの値をインポートしません。

## ソースセクション

ソースセクションにはルールの入力パラメータが含まれます。最大 10 個の入力パラメータを設定できます。

以下の表に、ソースセクションで設定できるプロパティを示します。

プロパティ	必須/ オプション	説明
モデル	必須	ルールを使用して変換するソースカラムを含むモデルワークシートで定義されるソースモデル。
パラメータ名	必須	入力パラメータ名。PowerCenter リポジトリサービスはこの値を Java トランスフォーメーション入力ポートに割り当てます。
パラメータの説明	オプション	入力パラメータの説明。PowerCenter リポジトリサービスはこの値をインポートしません。

プロパティ	必須/ オプション	説明
パラメータのデータ型	必須	<p>入力パラメータのデータ型。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 選択されたソースモデルで有効なデータ型。PowerCenter リポジトリサービスはこの値を Java トランスフォーメーション入力ポートのデータ型に割り当てます。</li> <li>- ドメインワークシートで定義されるドメイン名。PowerCenter リポジトリサービスはドメインワークシートで定義されたデータ型、長さ、およびスケールを Java トランスフォーメーション入力ポートに割り当てます。</li> </ul>
パラメータ長	必須	入力パラメータの長さ。PowerCenter リポジトリサービスはこの値を Java トランスフォーメーション入力ポートの精度に割り当てます。
パラメータのスケール	必須	入力パラメータのスケール。PowerCenter リポジトリサービスはこの値を Java トランスフォーメーション入力ポートのスケールに割り当てます。
パラメータ値	オプション	<p>入力パラメータがルール条件を満たすために必要な値。データ型のドメイン名を選択すると、マッピング仕様には列挙ワークシートで定義したすべての使用可能なドメイン値のリストが表示されます。</p> <p>空白の場合、入力パラメータのすべての値はルール条件を満たしています。</p> <p>値には次のいずれかを含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 定数。数値または文字列値を入力します。</li> <li>- 簡易式。比較する値の前に&gt;や&lt;などの比較演算子を入力します。例： &gt;25</li> <li>- 複合式。括弧内に複合式を入力します。例： (stateWord.toUpperCase().startsWith("CALI"))</li> </ul> <p>式には Java がサポートする演算子が含まれる必要があります。PowerCenter リポジトリサービスはこの値を使用し、Java トランスフォーメーションの Java コードに if 文を作成します。</p>

## ターゲットセクション

ターゲットセクションにはルールの出力結果が含まれます。最大 10 個の出力結果を設定できます。

以下の表に、ターゲットセクションで設定できるプロパティを示します。

プロパティ	必須/ オプション	説明
モデル	必須	ルールの結果を書き込むターゲットカラムを含むモデルワークシートで定義されたターゲットモデル。
結果名	必須	出力結果の名前。PowerCenter リポジトリサービスはこの値を Java トランスフォーメーション出力ポートに割り当てます。
結果の説明	オプション	出力結果の説明。PowerCenter リポジトリサービスはこの値をインポートしません。



プロパティ	必須/ オプション	説明
結果のデータ型	必須	出力結果のデータ型。 次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 選択されたターゲットモデルで有効なデータ型。 PowerCenter リポジトリサービスはこの値を Java トランスフォーメーション 出力ポートのデータ型に割り当てます。</li> <li>- ドメインワークシートで定義されるドメイン名。 PowerCenter リポジトリサービスはドメインワークシートで定義されたデータ型、長さ、およびスケールを Java トランスフォーメーション 出力ポートに割り当てます。</li> </ul>
結果の長さ	必須	出力結果の長さ。 PowerCenter リポジトリサービスはこの値を Java トランスフォーメーション出力ポートの精度に割り当てます。
結果のスケール	必須	出力結果のスケール。 PowerCenter リポジトリサービスはこの値を Java トランスフォーメーション出力ポートのスケールに割り当てます。
結果	必須	出力結果に割り当てる値。 データ型のドメイン名を選択すると、マッピング仕様には列挙ワークシートで定義したすべての使用可能なドメイン値のリストが表示されます。 値には次のいずれかを含めることができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 定数。数値または文字列値を入力します。</li> <li>- 式。括弧内に式を入力します。 例： (fname + " " + lname)</li> </ul> 式には Java がサポートする演算子が含まれる必要があります。 PowerCenter リポジトリサービスはこの値を Java トランスフォーメーションの出力ポートに割り当てます。

## 第 9 章

# マッピング仕様のインポートとエクスポート

この章では、以下の項目について説明します。

- [マッピング仕様のインポートおよびエクスポートの概要, 50 ページ](#)
- [マッピング仕様のインポート, 51 ページ](#)
- [マッピングのエクスポート, 53 ページ](#)
- [ログイベントのレベルの設定, 54 ページ](#)
- [マッピング仕様のインポートおよびエクスポートのトラブルシューティング, 55 ページ](#)

## マッピング仕様のインポートおよびエクスポートの概要

PowerCenter Repository Manager を使用すると、マッピング仕様から次の情報をインポートできます。

- ソース定義
- ターゲット定義
- ソース定義、ターゲット定義、フィルタ、結合、ルックアップ、集計式と非集計式、およびルールを含むマッピング

例えば、ビジネスアナリストは Microsoft Excel でマッピング仕様を作成して、ソース、ターゲット、フィルタ、および式の各トランスフォーメーションを含むマッピングを定義します。PowerCenter 開発者は、マッピング仕様をインポートして PowerCenter オブジェクトを作成します。

PowerCenter Repository Manager を使用すると、PowerCenter リポジトリからマッピング仕様に次の情報をエクスポートできます。

- ソース定義
- ターゲット定義
- フィルタ、ジョイナ、ルックアップ、アグリゲータ、または式のトランスフォーメーションを含む有効なマッピング

PowerCenter リポジトリサービスは、Mapping Analyst for Excel でサポートされているトランスフォーメーションをエクスポートします。他のトランスフォーメーションとともにマッピングをエクスポートする場合、ターゲット定義にマッピング仕様のすべてのポートが含まれないことがあります。

ワークフローがプロダクション環境で実行されているため、PowerCenter オブジェクトを Microsoft Excel にエクスポートした方が良い場合があります。ただし、これらのワークフローまたはマッピングに関するドキュ

メントは存在しません。PowerCenter 開発者は、ドキュメント化およびビジネスアナリストのレビューのために、マッピングをマッピング仕様にエクスポートできます。メタデータを Excel にエクスポートする際に、PowerCenter リポジトリサービスはモデル、パッケージ、およびマッピングのワークシートをエクスポートします。

## マッピング仕様のインポート

マッピング仕様をインポートするには、Repository Manager を使用します。ソース定義とターゲット定義をインポートするか、マッピング全体をインポートできます。マッピング仕様に複数のマッピングが含まれている場合、複数のマッピングを一度にインポートすることもできます。マッピングは完全または有効である必要はありません。

次の表は、標準マッピング仕様テンプレートに基づいてマッピング仕様をインポートするときに PowerCenter リポジトリサービスによって作成される PowerCenter オブジェクトを示しています。

Mapping Analyst for Excel のコンポーネント	PowerCenter リポジトリオブジェクト
ソース情報。	ソース定義。
パイプラインからデータをフィルタするためのフィルタ式。	フィルタトランスフォーメーション。
2つのソースを結合するための結合式。2つより多いソースを結合するには、複数の結合式を入力できます。	ジョイナトランスフォーメーション。
ルックアップを実行するためのルックアップ式。	接続されたルックアップトランスフォーメーション。
集計データトランスフォーメーション式。	アグリゲータトランスフォーメーション。
単一行データトランスフォーメーション式。	式トランスフォーメーション。
ルール。	Java トランスフォーメーション。
ターゲット情報。	ターゲット定義。
追加のコメントまたは説明	トランスフォーメーション、ソース定義、およびターゲット定義に関連付けられた説明。 PowerCenter 開発者に追加のメモを提供します。
ユーザー定義プロパティ。	メタデータエクステンション。

マッピング仕様をインポートするとき、PowerCenter リポジトリサービスは特定の順序でトランスフォーメーションをマッピングに追加します。ソース定義の後で、PowerCenter リポジトリサービスはジョイナ、ルックアップ、フィルタ、式、Java、およびアグリゲータの各トランスフォーメーションを追加してから、ターゲット定義を追加します。PowerCenter 開発者は、マッピングを編集してトランスフォーメーションの順序を変更できます。

マッピング仕様をインポートしたら、インポートされたオブジェクトをレビューします。マッピング仕様からインポートされたほとんどのマッピングは、検証する前に編集が必要となります。

1. Repository Manager で、フォルダを開いて、**[リポジトリ] > [メタデータのインポート]** をクリックします。  
[クライアントツールの選択] ページが表示されます。
2. [ソースツール] フィールドで、**[Microsoft Office Excel]** を選択して **[次へ]** をクリックします。  
[Microsoft Office Excel のオプション] ページが表示されます。
3. [ファイル] オプションの **[値]** フィールドをクリックして、インポートするマッピング仕様を検索して選択します。
4. **[次へ]** をクリックします。  
[PowerCenter オプション] ページが表示されます。
5. オプションを入力します。  
次の表に、入力する必要のあるオプションを示します。

オプション	説明
オブジェクトのエクスポート	PowerCenter リポジトリにインポートするオブジェクト。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>- [ソース、ターゲット、およびマッピング]。マッピング仕様からマッピング全体をインポートします。マッピング全体を示すマッピング仕様を使用します。</li><li>- [ソースとしてのテーブル]。すべてのテーブルまたはファイルをソースとしてインポートします。</li><li>- [ターゲットとしてのテーブル]。すべてのテーブルまたはファイルをターゲットとしてインポートします。</li></ul> デフォルトは [ソースとしてのテーブル] です。
データベースタイプ	ソースおよびターゲットデータベースのデータベースタイプ。データベースタイプまたは [フラットファイル] を選択するか、[自動検出] を選択して、PowerCenter がマッピング仕様からデータベースタイプを判別できるようにします。 デフォルトは [自動検出] です。
データベース名	インポートされるソーステーブルのデータベース名。マッピング仕様に入力されたソースデータベース名をオーバーライドします。オプション。
コードページ	PowerCenter リポジトリサービスコードページの名前。 デフォルトは MS 1252 です。

オプション	説明
メタデータエクステンションのエクスポート	PowerCenter メタデータエクステンションとしての説明およびコメントのインポート。次のいずれかのオプションを選択します。 - True。説明およびコメントをインポートします。 - False。説明およびコメントをインポートしません。 デフォルトは true です。
Informatica のインストール先のパス	Informatica PowerCenter クライアントのバイナリファイルのパスです。 例えば、C:\Informatica\PowerCenter <Version number>のように設定します。 このパスに client フォルダと java フォルダがあることを確認してください。 <b>注:</b> Java トランスフォーメーションのルールワークシートをインポートするときにこのパラメータを指定しない場合、Mapping Analyst for Excel はビジネスルールの Java バイトコードを生成しません。

6. デフォルトのオプションに戻すには、**【デフォルトを使用】** をクリックします。
7. **【次へ】** をクリックします。  
マッピング仕様からのインポートが成功すると、**【インポート結果】** ダイアログボックスにメッセージが表示されます。インポートが成功しなかった場合、エラーメッセージが表示されます。  
ログイベントを表示するには、**【詳細を表示】** をクリックします。 **【ログの保存】** をクリックして、ログイベントをファイルに保存することもできます。
8. **【次へ】** をクリックします。  
**【ソースの選択】** ダイアログボックスに、マッピング仕様のソースまたはターゲットと選択したすべてのオブジェクトがデフォルトで表示されます。
9. インポートするオブジェクトを選択して、**【完了】** をクリックします。  
PowerCenter リポジトリサービスがマッピング仕様からメタデータをインポートします。  
インポートしているオブジェクトと同じ名前のオブジェクトがインポートフォルダに含まれている場合は、競合の解決ウィザードが表示されます。競合の詳細については、**【競合の比較】** をクリックします。  
あるいは、競合する各オブジェクトについて、オブジェクトを選択して次のいずれかの解決策を選択します。
  - 名前の変更。オブジェクトの名前を変更してターゲットフォルダにインポートします。
  - 置換。ターゲットフォルダ内の既存のオブジェクトを置き換えます。
  - 再利用。ターゲットフォルダ内の既存のオブジェクトを使用します。
  - スキップ。オブジェクトのインポートをスキップします。
すべてのソースまたはすべての競合に同じ解決策を適用することもできます。
10. **【次へ】** をクリックしてから、**【閉じる】** をクリックして、競合の解決ウィザードを閉じます。

## マッピングのエクスポート

Repository Manager を使用して、PowerCenter リポジトリからマッピング仕様にオブジェクトをエクスポートします。ソース定義およびターゲット定義をエクスポートするか、フィルタ、ジョイナ、ルックアップ、アグリゲータ、および式のトランスフォーメーションが含まれている有効なマッピングをエクスポートできます。

PowerCenter リポジトリサービスは、Java トランスフォーメーションをマッピング仕様のルールワークシートにエクスポートしません。

PowerCenter リポジトリサービスは、Mapping Analyst for Excel でサポートされているトランスフォーメーションをエクスポートします。他のトランスフォーメーションとともにマッピングをエクスポートする場合、ターゲット定義にマッピング仕様のすべてのポートが含まれないことがあります。

1. Repository Manager で、エクスポートするリポジトリオブジェクトが含まれているフォルダを開きます。
2. ナビゲータで、エクスポートするマッピング、あるいはソースセットまたはターゲットセットを選択します。
3. **【リポジトリ】 > 【メタデータのエクスポート】** をクリックします。  
[クライアントツールの選択] ページが表示されます。
4. ターゲットツールの場合は、[Microsoft Office Excel] を選択して **【次へ】** をクリックします。  
[Microsoft Office Excel のオプション] ページが表示されます。
5. オプションを入力します。

次の表に、入力する必要のあるオプションを示します。

Microsoft Excel オプション	説明
ファイル	エクスポートされるメタデータのマッピング仕様の名前。 [値] フィールドをクリックして、使用するマッピング仕様を検索して選択します。または、ウィザードによって作成されるようにファイル名に.xlsx 拡張子を付けて入力します。 メタデータは同じファイルに複数回エクスポートできます。既存のデータが含まれているマッピング仕様をエクスポートするとき、PowerCenter リポジトリサービスは空のセルに情報を書き込むか、既存のデータを上書きします。
形式	使用するマッピング仕様テンプレートの名前。 [標準] を選択します。

6. **【エクスポート】** をクリックします。  
エクスポートが成功すると、[エクスポート結果] ダイアログボックスにメッセージが表示されます。エクスポートが成功しなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。  
ログイベントを表示するには、**【詳細を表示】** をクリックします。 **【ログの保存】** をクリックして、ログイベントをログファイルに保存することもできます。
7. **【完了】** をクリックします。

## ログイベントのレベルの設定

マッピング仕様をインポートするか、マッピングをエクスポートすると、Mapping Analyst for Excel によってログイベントがファイルに書き込まれます。Mapping Analyst for Excel がファイルに書き込むログイベントのレベルを設定できます。

MirSetup.xml ファイルの LogLevel プロパティによって、ログイベントのレベルが決まります。

次の表に、各レベルで表示されるログイベントのタイプを一覧表示します。

ログレベル	表示されるログイベント
1	致命的なエラー。
2	すべてのエラー。
3	エラーおよび警告。
4	エラー、警告、およびステータスメッセージ。
5	デバッグメッセージを除くすべてのメッセージ。デフォルトは 5 です。
6	デバッグメッセージを含むすべてのメッセージ。

1. 次のディレクトリにある MIRSetup.xml ファイルを開きます。  
<PowerCenterClientInstallationDir>\client\bin\mimb\conf
2. LogLevel プロパティに適切なレベルを設定します。  
例えば、デバッグメッセージを含むすべてのログイベントを表示するには、LogLevel プロパティに 6 を設定します。  
<LogLevel>6</LogLevel>
3. MIRSetup.xml ファイルを保存します。

## マッピング仕様のインポートおよびエクスポートのトラブルシューティング

アグリゲータトランスフォーメーションを含むマッピングをエクスポートしました。ただし、エクスポートされたマッピング仕様のマッピングワークシートには、集計式が含まれていません。

Designer で、アグリゲータトランスフォーメーションの式ポートがマッピングターゲットに接続されていることを確認します。集計式をマッピング仕様にエクスポートするには、アグリゲータトランスフォーメーションの式ポートがマッピングターゲットに接続されている必要があります。

# 索引

## E

Excel アドイン  
インストール [13](#)

## J

Java トランスフォーメーション  
ルール [43](#)

## M

Mapping Analyst for Excel  
概要 [9](#)  
テンプレート [10](#)  
プロセス [10](#)  
Microsoft Excel  
PowerCenter メタデータの作成 [9](#)  
インポート元 [51](#)  
エクスポート先 [53](#)

## あ

アグリゲータトランスフォーメーション  
マッピング仕様での設定 [32](#)

## い

インポート  
Microsoft Excel から処理 [10](#)  
マッピング仕様へ [51](#)  
ログイベント [54](#)

## え

エクスポート  
Microsoft Excel から処理 [10](#)  
マッピング仕様へ [53](#)  
ログイベント [54](#)

## か

カラム  
表示 [13](#)

## け

結合ワークシート  
検証 [41](#)

結合ワークシート (続く)

設定 [35](#)  
説明 [34](#)  
複数を作成 [41](#)  
プロパティ [35](#)

検証

結合ワークシート [41](#)  
ドメインワークシート [26](#)  
パッケージワークシート [23](#)  
フィルタワークシート [41](#)  
マッピングワークシート [30](#)  
モデルワークシート [16](#)  
ルールワークシート [46](#)  
ルックアップワークシート [41](#)  
列挙ワークシート [26](#)

## さ

最小カラム  
表示 [13](#)  
最大カラム  
表示 [13](#)

## し

式  
設定 [33](#)  
式トランスフォーメーション  
マッピング仕様での設定 [33](#)  
集計式  
値のグループ化 [32](#)  
設定 [32](#)  
ジョイナトランスフォーメーション  
マッピング仕様での設定 [35](#)  
使用されているカラム  
表示 [13](#)

## そ

ソース  
ターゲットへの接続 [29](#)  
マッピング仕様での設定 [15, 35](#)

## た

ターゲット  
ソースへの接続 [29](#)  
マッピング仕様での設定 [15](#)



## つ

追加カラム  
表示 [13](#)  
追加プロパティ  
設定 [14](#)  
説明 [14](#)

## て

テンプレート  
マッピング仕様 [10](#)

## と

ドメインワークシート  
検証 [26](#)  
設定 [25](#)  
説明 [24](#)  
複数を作成 [25](#)  
プロパティ [26](#)  
ユーザー定義プロパティ [14](#)

## は

パッケージワークシート  
検証 [23](#)  
設定 [22](#)  
説明 [22](#)  
プロパティ [23](#)  
ユーザー定義プロパティ [14](#)

## ひ

標準マッピング仕様テンプレート  
説明 [10](#)  
使用 [12](#)

## ふ

フィルタトランスフォーメーション  
マッピング仕様での設定 [40](#)  
フィルタワークシート  
検証 [41](#)  
説明 [34](#)  
複数を作成 [41](#)  
プロパティ [40](#)  
複数のソース  
マッピング仕様での設定 [35](#)

## ま

マッピング仕様  
アグリゲータトランスフォーメーション [32](#)  
インポート [51](#)  
エクスポート先 [53](#)  
カラムの表示 [13](#)  
式トランスフォーメーション [33](#)  
ジョイナトランスフォーメーション [35](#)  
ソースデータの結合 [35](#)  
定義 [9](#)  
ドメインの設定 [24](#)

マッピング仕様 (続く)  
フィルタトランスフォーメーション [40](#)  
マッピングの設定 [12](#)  
ルール [33](#)  
ルックアップトランスフォーメーション [37](#)  
ルックアップの例 [37](#)  
列挙の設定 [24](#)  
マッピング仕様テンプレート  
定義 [10](#)  
使用 [12](#)  
マッピング名  
設定 [31](#)  
マッピングワークシート  
検証 [30](#)  
設定 [29](#)  
説明 [29](#)  
複数を作成 [30](#)  
プロパティ [31](#)  
ユーザー定義プロパティ [14](#)

## め

メタデータエクステンション  
設定 [14](#)  
説明 [14](#)

## も

モデルワークシート  
検証 [16](#)  
設定 [15](#)  
説明 [15](#)  
複数を作成 [16](#)  
プロパティ [17](#)  
ユーザー定義プロパティ [14](#)

## ゆ

ユーザー定義プロパティ  
設定 [14](#)  
説明 [14](#)

## り

リレーションワークシート  
説明 [10](#)

## る

ルール  
Java トランスフォーメーション [43](#)  
マッピング仕様での設定 [33, 45](#)  
ルールワークシート  
検証 [46](#)  
書式設定 [46](#)  
設定 [45](#)  
説明 [43](#)  
複数を作成 [46](#)  
プロパティ [47](#)  
ルックアップトランスフォーメーション  
条件、設定 [38](#)  
マッピング仕様での設定 [37](#)  
マッピング仕様の例 [37](#)

ルックアップトランスフォーメーション (続く)

戻り値、設定 [39](#)

ルックアップワークシート

検証 [41](#)

設定 [38](#), [39](#)

説明 [34](#)

複数を作成 [41](#)

プロパティ [39](#)

## れ

列挙ワークシート

検証 [26](#)

列挙ワークシート (続く)

設定 [25](#)

説明 [24](#)

複数を作成 [25](#)

プロパティ [27](#)

ユーザー定義プロパティ [14](#)

## ろ

ロギイベント

レベルの設定 [54](#)